

IV-3 (4) 第1回男女共同参画に関する管理職セミナー

【1】趣旨

管理職に対する男女共同参画に関する意識啓発及び男女共同参画及び女性研究者支援を巡って大学が置かれている現状に関する情報提供を目的として、男女共同参画に関する管理職セミナーを実施した。

【2】プログラム

日時 平成22年9月10日(金) 16:00~17:00

場所 本部棟第一会議室(6階)

対象 管理職員

内容

1. 講演

講演 「東北大学における男女共同参画推進の取り組みについて」

講師 折原 守 独立行政法人国立科学博物館理事

(前東北大学理事(人事労務・キャンパス環境・男女共同参画担当))

2. 質疑応答

司会 五福明夫 大学院自然科学研究科 教授(男女共同参画室員)

【3】実施報告

田中宏二理事(ダイバーシティ推進本部長)による開会挨拶の後、沖陽子男女共同参画室長より本学における男女共同参画の取り組みについて報告があった。引き続き折原氏が約40分間にわたり講演を行った。講演では、「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」の3プログラム(育児・介護支援、環境整備、次世代支援)に関する成果報告があり、全国初の数々の取り組みについての参加者が参加者の興味をひいた。次に、平成21年度から実施している「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」への応募の背景と取組状況について紹介があった。

講演後、限られた時間ではあったが大学院自然科学研究科五福明夫教授(男女共同参画室員)の司会により質疑応答が行われた。最後に千葉喬三学長による閉会挨拶があり、今後、男女共同参画を進めていく上で管理職の意識改革が重要であるということが参加者の間で確認された。


講演終了時に実施したアンケート(40名から回収)では参加者の反応はおおむね良好であった。セミナーへの参加が有意義であったという者の割合は、「とても有意義だった」と「まあまあ有意義だった」を合わせると90%近くを占めた。また、次回以降もテーマや日程に関わらず参加したいという積極的な態度を示す者は40%程度を占めた。同アンケートでは参加の動機も尋ねた。その結果、管理職は男女共同参画や講演テーマ、講師に関心が

あったというよりは管理職の義務として講演に参加したことが明らかになった（複数回答で24名）。次回からは管理職が関心を持って参加するよう、テーマや講師の選定に力を入れる必要があるといえる。

配布資料

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」
 学部・国大発 女性研究者が育つ進化プラン

**第1回男女共同参画に関する
管理職セミナー**



日時：平成22年9月10日(金曜日)
 場所：本部棟6階第1会議室

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

シンポジウム開催のお知らせ

日時：12月18日(土)
 会場：創立50周年記念館2階 会議室
 テーマ：「ダイバーシティこそが活力を生む
 —女性研究者が活躍できる結核づくりをめざして」(仮)
 講師：奥馬のゆり氏(公立ほこだて未来大学教授)
 岩切 真乃氏 (株式会社東芝多様性推進部長)

有意義な意見・情報交換の場となりますようお願いしております。
 ご多忙とは存じますが、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

～男女共同参画室ホームページのご案内～
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/j/in/j/diversity/danjo/index.html>
 <お問い合わせ先> ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
 TEL/FAX 086-251-7011
 E-mail: sarkaku@ada.okayama-u.ac.jp

第1回男女共同参画に関する管理職セミナー
— プログラム —

□ 司会：五福 明夫
 男女共同参画委員 (環境整備・支援推進部副長)
 大学院自然科学研究科教授

15:30～15:55	□ 受付
16:00～16:05	□ 開会の挨拶 田中 宏 二 ダイバーシティ推進本部長 理事(企画・総務担当)・副学長
16:05～16:10	□ 本学における男女共同参画推進の取り組み説明 神 島 子 男女共同参画室長 環境管理センター教授・大学院環境学研究科教授兼務
16:10～16:50	□ 講演 「東北大学における男女共同参画推進の取り組みについて」 折原 守 氏 国立科学博物館理事 東北大学理事(人事労務・キャンパス環境・男女共同参画担当)
16:50～16:55	□ 質疑応答
16:55～17:00	□ 閉会の挨拶 千葉 泰三 学長

第1回男女共同参画に関する管理職セミナー
— 講師のご紹介 —

独立行政法人 国立科学博物館 理事
折原 守 氏



職 東北大学理事
 (人事労務・キャンパス環境・男女共同参画担当)
 東北大学男女共同参画委員会委員長
 女性研究者育成支援推進室長

※※※ ご略歴 ※※※

昭和54年	3月	東京大学教育学部卒業
昭和54年	4月	文部省入省
平成10年	7月	文部省生涯学習局男女共同参画学習課長
平成14年	7月	香川県教育委員会教育長
平成14年	4月	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長
平成16年	7月	国立教育政策研究所教育課程研究センター長
平成17年	3月	文部科学省初等中等教育局長主任視学官兼任
平成17年	7月	放送大学学術事務局局長
平成17年	9月	文部科学省大臣官房付
平成19年	10月	東北大学理事(人事労務・施設担当)
平成20年	4月	東北大学理事(人事労務・キャンパス環境・男女共同参画担当)
平成22年	8月	独立行政法人国立科学博物館理事

第1回男女共同参画に関する管理職セミナー
アンケート集計結果

- Q1 今回のセミナーへの参加は有意義でしたか。
- | | |
|-----------------|-----|
| 1. とても有意義だった | 13名 |
| 2. まあまあ有意義だった | 22名 |
| 3. あまり有意義ではなかった | 3名 |
| 4. 全く有意義ではなかった | 1名 |
- Q2 今回のセミナーにはどのような動機から参加されましたか。(複数回答可)
- | | |
|---------------------|-----|
| 1. 講演テーマに関心があったから | 5名 |
| 2. 講師に関心があった | 10名 |
| 3. 男女共同参画一般に関心があった。 | 12名 |
| 4. 管理職の義務だから | 24名 |
| 5. その他 | 0名 |
- Q3 次回以降も男女共同参画に関する管理職セミナーに参加したいですか。
- | | |
|------------|-----|
| 1. 参加したい | 15名 |
| 2. 参加したくない | 0名 |
| 3. テーマによる | 12名 |
| 4. 日程による | 11名 |
- Q4 次回以降のセミナーで聞いてみたいテーマを選んでください。(複数回答可)
- | | |
|------------------------|-----|
| 1. 大学におけるワークライフバランスの取組 | 13名 |
| 2. 企業におけるワークライフバランスの取組 | 10名 |
| 3. 大学における女性研究者増加のための取組 | 8名 |
| 4. 企業における女性活用のための取組 | 11名 |
| 5. 大学の管理運営と男女共同参画 | 16名 |
| 6. 育児・介護と仕事の両立 | 5名 |
| 7. ストレス予防, メンタルヘルス | 9名 |
| 8. 仕事の効率を高めるタイムマネジメント | 9名 |
| 9. その他 | |
| ・看護師と家庭との両立のための取組 | |

Q5 本日のセミナーの感想をご自由にお書きください。

- ・ 有意義なセミナーであった。
- ・ 科振興費の取り方などは、担当者が別途聞けばいいのでは？セミナーとしては主旨が違うと思う。申請方法などは、色々な場面で対応できると思うので大変有意義であった。
- ・ 男女参画機会を均等にする事の意義についてですが、アウトカムを何にするのかが、十分に論じられていないように思います。何を向上するのか？女性の比率を増加するのが目的というのは、何か不思議に思えます。
- ・ 男女共同参画の遂行にあたって、研究科長へのボーナス査定を使っていることを聞いて驚いた。このような半ば強制的なやり方は、大学にふさわしいだろうか。
- ・ 散漫な内容で、男女共同参画のなかみについての説明が何もなかった。
- ・ 部局への予算配分にインセンティブとして女性教員の採用数を加味していることが参考となった。
- ・ 概算要求の進め方等にとっても参考になりそうです。本音の話が聞けてよかったと思います。
- ・ 岡大も男女共同参画を進めてほしい。
- ・ 文科省による大きい補助があることを初めて知った。
- ・ 大変有意義でした。
- ・ 色々な問題を知ることができた。我々の部局にどの程度利用できるか検討したい。



千葉 喬三学長による挨拶



田中 宏ニダイバーシティ推進本部長
(理事・副学長)による挨拶



折原 守氏
独立行政法人国立科学博物館理事



会場風景

IV-3 (5) 他機関との協働

① 「アフリカ諸国におけるジェンダー・イシューズの現状！」

市民協働事業 講演会&ワークショップ

平成23年1月23日(日)、岡山大学創立五十周年記念館2階会議室において、(社)大学女性協会岡山支部・岡山市・岡山大学が主催し、市民協働事業「講演会&ワークショップ」を開催した。講師には、岡山大学大学院教育学研究科テンビ・コンスタンス・ンデララーネ教授をお招きし「アフリカ諸国におけるジェンダー・イシューズの現状！」と題して、アフリカ諸国における女性の暮らしや社会的な地位・教育についてご講演いただいた。

「市民協働事業」は、岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」の登録団体から発案された企画をもとに、市民グループと岡山市が協働して実施する事業です。

アフリカ諸国における ジェンダー・イシューズの現状!

講演&ワークショップ

ジェンダーの視点で、アフリカ諸国の暮らし・教育・女性の地位などの現状についてお話しいただきます。(通訳あり)

講師プロフィール

プレトリア大学社会科学部センター上級講師、専門教育大学教員研究員、ニューヨーク州立大学ニューヨーク州立教員研究員を経て、平成22年4月1日より現職。
2001年～現在まで、ユネスコの女性の地位向上プロジェクトに携わりアフリカ各国(※)で活躍。

参加無料

■日時:平成23年1月23日(日)
13:30~15:30

■講師:テンビ・コンスタンス・ンデララーネさん
(岡山大学大学院教育学研究科教授)

■会場:岡山大学創立50周年記念館 2階会議室

■定員:100人(申込み先着順)

■対象:一般市民・学生・研究者

お申込み・お問い合わせ

※岡山県男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」(平日9時30分~20時、日・休日9時30分~17時、5階) 休館
TEL. 086-803-3355 Fax. 086-803-3344
E-mail: sarkaku@city.okayama.jp

●主催 (社)大学女性協会岡山支部・岡山市・岡山大学

市民協働事業 講演会&ワークショップ

「アフリカ諸国における
ジェンダー・イシューズの現状！」

平成23年1月23日(日)

男性支配が圧倒的に強いアフリカ諸国では、貧困や早期結婚により女性が十分に教育を受けられないこと、女性が子育てや家庭内の仕事に縛られていて、仕事を持つことが難しいこと、また家庭と仕事の両立のための支援を夫や社会から受けることが困難なことなど、女性が経済的にも社会的にも弱い立場に置かれている現状が報告された。また、HIV&AIDSの蔓延にも言及がなされた。

しかし、その中で、マダガスカルは政府により男女平等が保証されていて、能力のある女性が高い地位に就くなど非常に先進的であることや、南アフリカ共和国は、1994年以降、法律により人種・性別による差別や暴力が禁止されていることが紹介された。

講演のあとは、6名がひとつのグループになり、日本の現状・問題について意見交換を行った。

IV-3 (5) ② 医療人キャリアセンターMUSCAT との協働

～医療人 GP「女性を生かすキャリア支援計画」を通して（H21 年度）～

岡山大学は、平成 19 年度文部科学省「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人 GP）」の採択を受け、取組代表者である片岡仁美医師（岡山大学病院卒後臨床研修センター 講師）のもと、『女性を生かすキャリア支援計画』事業の活動を 3 年間推進してきた。

医師及び看護師の臨床現場からの離職防止と復職支援を目的としたこの事業は、先輩から後輩へ知識と経験を伝えながらネットワークの中で支え合うシステムの構築（岡山 MUSCAT）、一人一人に合わせた復職支援プログラム（Muscat WILL）、上司、同僚、後輩、家族など、男性の参画を目指したサポータークラブ、そして病児保育ルームの設立など、その取組は多彩である。特に学生・研究生を含めた全学職員を利用対象者とする「ますかつと病児保育ルーム」は、男女共同参画室が推進する女性研究者支援事業の中でも重要な位置を占め、本学の男女共同参画推進体制を形成するうえで大きな成果となっている。また、MUSCAT ミーティング、MUSCAT シンポジウムなど各種イベントが開催され、男女共同参画室との共催・協賛・後援イベントも行われた。（Art, Science, My life-ワークライフバランスと自己実現：平成 21 年 10 月 9 日、第 2 回交流サロン：平成 21 年 11 月 13 日、第 3 回 MUSCAT シンポジウム：平成 21 年 11 月 22 日、次世代を育む講演会 I：平成 22 年 3 月 10 日）。今後も「女性を生かすキャリア支援計画」と協働し、男女共同参画を目指して幅広い活動を行っていききたい。

Art, Science, My Life
ワークライフバランスと自己実現



平成 21 年 10 月 10 日（土）

第 3 回
岡山 MUSCAT シンポジウム



平成 21 年 11 月 22 日（日）

次世代を育む講演会 I



平成 22 年 3 月 10 日（水）

医療人 GP 「女性を生かすキャリア支援計画」の概要

平成19年度文部科学省
「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」(医療人GP)採択
女性を生かすキャリア支援計画

全体概要図

岡山大学の医療人 GP の取組「女性を生かすキャリア支援計画」は、**飛躍助産者紹介システム** (岡山 MUSCAT: MDs and Undergraduates Support and Care Attractive Women's Team) を女性医師の臨床現場で活躍の場を拓き、医療と結び可能な複職支援コース (MUSCAT Will: Women's Interactive Lifelong Learning and working) を女性医師の復帰支援の柱とするプランです。さらに、その 2 本柱を支えるのが職場の男性・家族の理解と協力 (サポータークラブ) です。

飛躍助産者紹介システム (岡山 MUSCAT) は産科が現場を支える産科医サポートシステムで、手だまな現場では少数派の女性医師がお互いに支えあえるネットワークを構築します。

その活動はオンラインとオフラインにより行われます。オンラインでは MUSCAT 及びサポータークラブ会員限定のコミュニティサイト『岡山 MUSCAT WEB』による活動を継続的に、またオフラインでは『岡山 MUSCAT ミーティング』『岡山 MUSCAT シンポジウム』の活動を行います。MUSCAT ミーティングは毎月で開催し、各分野で活躍中の先輩女性医師から後進医師、学生への生きたメッセージとその活躍を支える上司・同僚男性医師からのメッセージを伝え、毎回多くの参加を求めています。MUSCAT シンポジウムは広く地域に参加者を募り講演、ディスカッションを中心としたイベントで、毎月回の開催を予定しています。

家庭と両立可能な複職支援コース (MUSCAT Will) はコースは短期トレーニングコースとワーキングコースに分かれています。短期トレーニングコースは、産科管理シミュレーションラボを用いた多岐多彩なコースを用意し、また託児など子育て中の医師も気軽に参加できる体制を整えています。一方、ワーキングコースは、大学病院や協力病院において On the job トレーニングとし、家庭や育児との両立に配慮した研修体制を整えています。

女性医師一人一人の力を生かす本取組は、女性医師の活躍の場を拓き、日本の医療、地域医療に大きく貢献するものと考えます。

組織図

本取組の中心となるのは平成19年9月に発足した**キャリアセンター**です。

卒業臨床研修センター医師 (総務担当)、事務局 (WEB 担当、事務担当) を中心に、総務主理学医師 (小児科領域の復帰コーディネーター)、産科医医師 (短期トレーニングコースコーディネーター)、産婦人科医師 (産科教育委員、産科医育フォーキンググループ、産婦人科領域復職コーディネーター)、衛生学医師 (アンケート、WEB 担当)、腎・免疫・内分泌代謝内科医師 (病態管理担当)、小児科医師、耳鼻科医師、眼科医師、総合診療科医師がコアメンバーとして、1-2 回の運営会議のほか個々の活動を行っています。

キャリアセンターは地域医療関係部会、岡山医師研修支援機構、岡山県医師会女医部会、岡山県産科協会、岡山県などの団体と連携し、本取組を地域全体の取組へと拡大する努力をしています。

【外部団体】

- 地域医療関係部会
- 岡山医師研修支援機構
- 岡山県産科協会女医部会
- 岡山県産科協会
- 岡山県

IV-3 (5) ③ 医療人キャリアセンターMUSCAT との協働

～岡山県女性医師キャリアセンター運営事業「MUSCAT プロジェクト」を通して (H22年度) ～

「女性を生かすキャリア支援計画」(医療人GP) 事業活動が平成 21 年度で終了し、平成 22 年 9 月には、新たに「医療人キャリアセンターMUSCAT」が設立された。医療人 GP に引き続き片岡仁美医師(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座 教授)のもと、岡山県より委託を受けた岡山県女性医師キャリアセンター運営事業「MUSCAT プロジェクト」が開始され、センターを中核としながら、学内および地域の女性医療人支援が展開されている。

男女共同参画室は、平成 22 年 9 月 16 日(木)に「外部資金獲得セミナー」、平成 22 年 10 月 10 日(日)には、「第 1 回岡山 MUSCAT フォーラム～大学と地域の協働で踏み出す医療人支援の新たな一歩～」を共催した。また、平成 23 年 3 月 9 日には研究スキルアップ講座第 3 弾「共同研究の心得」を実施する予定である。平成 22 年度の協賛イベントとしては、次世代を育む講演会Ⅱ(平成 22 年 4 月 13 日)・次世代を育む講演会Ⅲ(平成 22 年 6 月 23 日)がある。今後も、医療人キャリアセンターMUSCATと連携をとりながら、男女共同参画の推進を目指していきたい。

次世代を育む講演会Ⅱ
平成 22 年 4 月 13 日

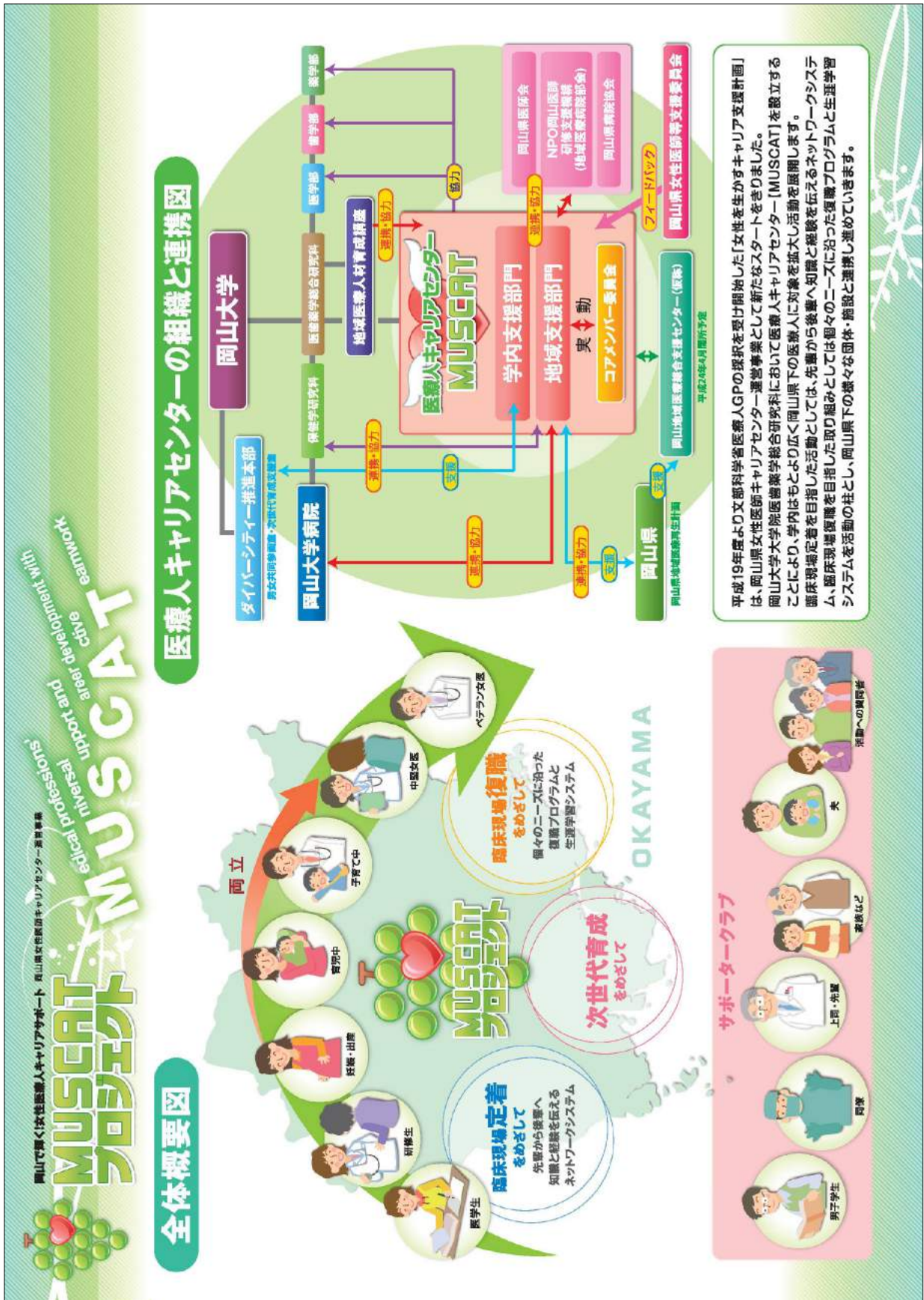


次世代を育む講演会Ⅲ
平成 22 年 6 月 23 日



第 1 回 MUSCAT フォーラム
平成 22 年 10 月 10 日





平成19年度より文部科学省医師会GPの採択を受け開始した「女性を生かすキャリア支援計画」は、岡山県女性医師キャリアセンター運営事業として新たなスタートをきりました。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科において医師会キャリアセンター〔MUSCAT〕を設立することにより、学内はもとより広く岡山県下の医師会に対象を拡大し活動を展開します。臨床現場定着を目指した活動としては、先輩から後輩へ知識と経験を伝えるネットワークシステム、臨床現場復帰を目指した取り組みとしては個々のニーズに沿った復職プログラムと生涯学習システムを活動の柱とし、岡山県下の様々な団体・施設と連携し進めています。

IV-3 (5) ④ 科学 Try アングル岡山 平成 22 年度女性科学技術者講演会 「おかやま発 Science な女性たち PartIII」

岡山の主要 3 都市（岡山・倉敷・津山）に位置する自然科学系大学、高専、研究所など（岡山大学・岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・津山工業高等専門学校・岡山県）が持つ、それぞれの特徴と教育資源を結集して組織された「科学 Try アングル岡山」は、平成 20 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム」の採択を受け、大学生は勿論、対象者を児童生徒から学校教員等、一般社会人にまで広げ、「科学大好き岡山クラブ」「わくわく理科講座」をはじめ、様々な企画・活動を通して「科学による地域の活性化」に挑戦（Try）している。

男女共同参画室は、平成 22 年 12 月 11 日（土）に開催された“平成 22 年度女性科学技術者講演会「おかやま発 Science な女性たち PartIII」”を後援し、片岡仁美室員（大学院医歯薬学総合研究科 教授）が「研究、臨床、教育に携わって～理系女性の可能性～」と題して講演を行った。次世代の女性研究者に向けて、理系分野の魅力や先輩としてのアドバイスを伝えた。

平成 22 年度女性科学技術者講演会
おかやま発
サイエンス Science な女性たち Part III

すでに岡山の理工系大学を卒業し、様々な分野でがんばっている先輩はたくさんいます。理工系分野で活躍する女性は、まだまだ少ないのが現状。これからは、専門的な能力や知識を生かして、理工系分野で活躍する女性の登場が期待されています。昨年度以上に引き続き、一足先に活躍されている女性先輩たちからのお話をお聞きして、理工系分野の魅力や就職、現在の生活に誇りを感じたいと思います。学生のみならず、先輩のアドバイスを参考に、理工系分野にチャレンジしてみませんか？

日時 平成 22 年 12 月 11 日（土）14:00～17:30
場所 岡山理科大学 40 周年記念館理大ホール
定員 400 名 参加費 無料

●●講演プログラム●●●●

14:00 開会の挨拶

14:10 **栗野 諭美 氏**
岡山天文博物館
講演「**星空に導かれて～理系として天文の道へ進むということ～**」

15:00 **片岡 仁美 氏**
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
講演「**研究、臨床、教育に携わって～理系女性の可能性～**」

16:00 研究交流会（ポスター発表&ディスカッション）
（参加者：講師、高校生、大学生、大学院生、教員など）

17:30 閉会の挨拶

【主催】科学 Try アングル岡山
後援：岡山大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、津山工業専門学校
【後援】岡山大学ダイバーシティ推進本部女性局推進室
岡山県（申請中）、岡山県教育委員会（申請中）
岡山市（申請中）、岡山市教育委員会（申請中）
【会場案内】岡山理科大学 40 周年記念館理大ホール（〒700-0005 岡山 北区松原 5-1-1）
アクセスマップ <http://www.ous.ac.jp/summary/access.html>
▷路線バス（JR岡山駅西口発）：岡電バス、岡山理科大学行
岡山理科大学バス停下車 所要時間：20 分（130 円）
▷京浜山線（JR岡山駅発）：法界院駅下車（一駅目）
所要時間：1 R4 分、徒歩 20 分
▷費用車（岡山北より）所要時間：約 25 分
岡山・倉敷・津山—岡山市北方—岡山大学—岡山理科大学

【お申し込み・お問い合わせ】
科学 Try アングル岡山 | 岡山理科大学サテライトオフィス
大正貴司（応用数学科 准教授）
〒700-0005 岡山 北区松原 5-1-1
Tel:086-256-3578 E-mail: info@math.ous.ac.jp

科学 Try アングル岡山は、岡山理科大学大学院医歯薬学総合研究科の協賛による「科学 Try アングル岡山」による

平成 22 年度女性科学技術者講演会
おかやま発 Science な女性たち PartIII
平成 22 年 12 月 11 日（土）

IV-4 広報活動の実施

(1) ニュースレター発刊

男女共同参画室の活動を学内、学外に広く広報する目的ですべての教員、職員、大学院生に配布した。さらに全国の大学、研究機関等、関係部署に配布し、各種催事でも配布した。

ニュースレター創刊号（第1面）（平成22年7月発行）

創刊号 2010.7

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」
学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

Newsleter

はじめまして！岡山大学ダイバーシティ推進本部
男女共同参画室からのお知らせです！

もくじ	
学長ご挨拶	1
理事ご挨拶	1
ニュースレター創刊号発刊によせて	1
男女共同参画への取り組み（平成21年度）	2
岡山大学WTT教員制度をご存じですか	2
男女共同参画への取り組み（平成22年度）	3
平成22年度活動予定	3
男女共同参画室員からのメッセージ	4
編集後記	4

学長ご挨拶

国立大学法人 岡山大学
学長 千葉 喬三

岡山大学は、「学部・岡山大学」として中国・四国地域における中核的な学術拠点となることを目指しています。その実現のためには、優秀な教育・研究人材の確保・育成が大きな課題であり、特に女性研究者、外国人研究者等多様な人材が活躍できる環境を整備することが求められています。

岡山大学では、本年4月にはウーマン・テニユア・トラック(WTT)制による最初の女性助教4名を本学にお迎えしました。次世代の女性研究者のロールモデルになっていただくためにも優れた研究者として活躍していただくことを大いに期待しています。

今後とも、男女共同参画室を中心に、男女共同参画の推進とワーク・ライフ・バランスの実現に向けて取り組んでまいりたいので、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

理事ご挨拶

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部
本部長 田中 宏二
(理事・副学長)

岡山大学ダイバーシティ推進本部では、四つの室を中心に、長期的視野で組織の持続的発展を図り、全ての職員のワーク・ライフ・バランスの推進を目指して様々な施策を実行しています。特に昨年度から学童保育所、病児・病後児保育施設の設置、保育所の全学施設化など、具体的な施策が急ピッチで進められています。

このような状況の中で、「女性研究者支援モデル育成」事業に採択された「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」は、男女共同参画推進の大きな追い風になると考えております。

本事業の実施を通じて男女共同参画の推進だけでなく、本学でのダイバーシティ文化の醸成と共生社会の実現に努めてまいりたいので、一層のご支援をお願いします。

ニュースレター創刊号発刊によせて

室長 沖 陽子

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部
男女共同参画室
室長 沖 陽子

すなわち「研究体制サポート」を充実させ、「雇用」のチャンスを確保し、「持続性」のある次世代女性研究者の人材育成が保証される「循環型システム」の実質化に向けて、室員一同、走ってまいりました。その成果をニュースレター創刊号にて、皆様方にお知らせできることは、大変、喜ばしいことであり、また皆様方の温かいご支援に感謝いたします次第です。

本室では、次世代を見据えて、女性・男性共に大いなる資質と能力が持続的に開花する環境整備を目指して、これからも活動を進めて参ります。男女共同参画社会構築に向けて、意識改革、意識啓発の一助となるニュースレターを定期的に発行することにより、学内はもとより学外の皆様方とも楽しい輪が広がることを切に希望致しております。ご一緒にニュースレターを育てて頂ければ幸いです。

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室は平成21年1月に開設し、その後、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択され、私どもの活動に弾みがつきました。

平成21年度は、企画いたしました3本の進化プラン、

ニュースレター創刊号（第2面）（平成22年7月発行）

男女共同参画への取り組み（平成21年度）

メンター研修会を開催しました

平成21年12月7日・8日、メンター養成研修会を行いました。メンターとは、相談者の可能性を最大限に引き出しながら、適宜助言をし、人生相談にも応じられる信頼の置ける相手のことをいいます。



研修会では、メンターの養成を目的として、相談者の知識や経験をいかに引き出すか、相談者との信頼関係はどう構築するのかについて学びました。発問の仕方、ロールプレイ演習等を通して、コミュニケーション能力の向上につながる研修でした。休憩をはさんで8時間にわたる長丁場でしたが、非常に充実した活気あふれる2日間となりました。

平成21年度交流サロン



男女共同参画や女性研究者支援に関する情報交換、意見交換などを目的として、平成21年9月29日に第1回交流サロン、同11月13日に第2回交流サロン、平成22年3月5日に第3回交流サロンを開催しました。講演後お茶をいただきながらのフリートークでは、和やかな空気のなか、活発な意見や感想が交わされました。

国際シンポジウム開催



平成22年3月6日、岡山国際交流センターレセプションホールにおいて、岡山県・岡山市のご後援の下、「世界は今、そして未来は—男女共同参画とワーク・ライフ・バランス」と題して男女共同参画推進国際シンポジウムを開催しました。

日本の男女共同参画社会の構築は、世界の中でもかなり遅れています。大学等の研究機関も例外ではなく、特に自然科学系の分野においては、意識啓発、並びに雇用促進等を早急に行わなければならない状況にあります。

本シンポジウムでは、川端和明氏（文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長）、佐藤洋平氏（独立行政法人農業環境技術研究所理事長）並びにタイ、カナダ、韓国出身の研究者をお迎えして、研究者育成施策に関する御助言等を頂きました。

岡山大学WTT（ウーマン・テニユア・トラック） 教員制度をご存じですか

岡山大学では、「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の一環として、若手女性研究者を対象に「ウーマン・テニユア・トラック(WTT)」教員制度を発足させ、平成22年4月1日に第一期WTT教員4名が採用されました。

採用された第一期WTT教員をご紹介します。(五十音順)

【所属】大学院自然科学研究科
機能分子化学専攻
(理学部附属界面科学研究施設)



江口 律子

たくさんの学生さんに囲まれてにぎやかに教育や研究が行える環境が大学の良さだと感じています。研究分野からすると女子学生の少ない分野ではありますが、自らの研究を通して一人でも多くの学生さんが物性研究に興味を持ってもらえたらと思います。周囲の刺激を受けながら様々な経験を経て自分自身も成長していけるように頑張ります。

【所属】大学院自然科学研究科
バイオサイエンス専攻
(理学部附属牛窓臨海実験所)



御興 真穂

出身は大阪ですが、10年以上を首都圏で過ごし、久しぶりに西日本に戻ってきました。岡山には初めて住みますが、瀬戸内海は波も穏やかでよいところです。研究はもちろん、臨海実験所ならではの教育にも貢献していきたいと思っています。

【所属】大学院自然科学研究科
バイオサイエンス専攻
(資源植物科学研究所)



三谷 奈見季

多くの人に支えられ、WTT教員としてスタートをきることができました。このチャンスを活かせるよう、しっかりと目標を持ち、かつ楽しみながらのびのびと研究を行っていきたくと思っています。そして研究者を目指す女子学生の皆さんに良い刺激が与えられれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

【所属】大学院自然科学研究科
バイオサイエンス専攻
(理学部生物学科)



吉岡 美保

先日、新入生の研修旅行に教員として初めて同行し、記念に「ランタナ」という花をそこの朝市で買いました。蕾が開くにつれて、花の色が黄色→オレンジ色→赤色と鮮やかに変化していきます。花言葉「協力」そのままに、小さな花が一カ所にたくさん集まって咲くほほえましさ、成長とともにいろいろな花色を見せる面白さに魅力を感じました。この場でご挨拶できることに感謝し、私もランタナの花のようにたくさんの方と協力しながら、母校岡山大学の教育と研究に貢献できるように一生懸命がんばりたいです。

男女共同参画への取り組み (平成22年度)

研究サポート体制



男女共同参画室では、本学の女性研究者に対する支援の一環として、出産・育児等の理由で研究時間の確保が困難な理系の常勤女性教員を対象に、教員の指示の下で研究補助業務(実験補助、研究データ解析、文献調査、統計処理、資料作成等)に従事する研究支援員を配置する研究支援員事業を実施しております。現在、2名の女性教員が制度を利用して、週20時間の支援を受けています。

研究支援員事業の利用を希望される方は男女共同参画室までお問い合わせ下さい。



キャリアカフェで ゆるやかなひととき

平成22年5月26日、女性研究者および大学院生を対象としたキャリアカフェが女性サポート相談室で行われ、参加者からは女性研究者を目指すにあたっての不安や問題などが活発に語られました。所属分野が違うものの、文系や理系の女性研究者への道程には共通した課題が多いことを受けて、小冊相談員より女性研究者支援事業の現状と岡山大学における取り組みが説明されました。参加者の様子からは、厳しい状況を知ったうえで、それを乗り越えていきたいという意気込みを感じました。紅茶とクッキーをいただきながらの短いひとときでしたが、終了後には「初めて会うにも関わらず十分話すことができて良かった」「またぜひ参加したい」などの感想が寄せられました。

女性サポート相談室のご案内

岡山大学に所属する女性(教職員・研究者・学生)を対象に、キャリア確立・仕事と育児の両立・人間関係の悩み等に関する相談窓口として、開設しています。業務の都合で来室できない方のために、メールや電話での相談も受け付けていますので、お気軽にご利用ください。

【電話番号】086-251-7011

【E-mail】support-w@adm.okayama-u.ac.jp

詳細は下記URLをご覧ください。

http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/soudan_1.html

平成22年度第1回交流サロンを 開催しました



平成22年6月4日、岡山大学50周年記念館で「平成22年度第1回交流サロン」を開催しました。

今回は、岡山大学大学院自然科学研究科副研究科長の稲垣賢二教授による「若い世代へ贈る言葉：共働き、子育てを楽しむもう1」と題したお話の後に、全員が輪になり、交流サロンを行いました。

交流サロンでは「女性が働きやすい条件とは何か?」「二十代女性の専業主婦願望が高まっているのはなぜか?」等活発な意見が交わされました。国内の話題に加えて、海外事情についても討議され、充実した笑いの絶えない2時間は、あっという間でした。

次回交流サロンのお知らせ

【テーマ】「育児と仕事の両立～どんな感じ? 何が問題?」

【日時】平成22年7月30日(金)(16:15~18:15)

【場所】岡山大学本部棟6階第1会議室

出産・育児は女性が働く上で大きなハードル。教員、職員の方たちがリアルタイムの体験談をお話しされた後、みんなで交流タイムです。ちよっと貴重な体験を、なごやかなサロン形式でご一緒しませんか? みなさんお誘い合わせの上、ふるってご参加ください。



おかやまサイエンス・トーク を実施しました



平成22年7月1日、岡山大学と岡山县立岡山一宮高等学校の共催で「第1回おかやまサイエンス・トーク」を岡山一宮高等学校で開催しました。先輩にあたる女性研究者及び大学院生が、現在進めている

最先端の研究内容を高校生にわかりやすく紹介しました。

また、「フリー・トーキング」では、「少しだけ先輩」の演者と身近な問題、将来的問題、人生などについてざっくばらんに話し合いました。

平成22年度活動予定

- ・第2回交流サロン開催(7月30日)
- ・岡山大学オープンキャンパス参加(8月6~7日)
- ・管理職セミナー実施(9月10日)
- ・メンター制度に関するセミナー開催(9月~10月)
- ・シンポジウム開催(12月18日)
- ・おかやまサイエンス・トーク(第2回~)実施
- ・ニュースレター第2号・第3号発行
- ・研究支援員事業利用者募集
- ・メンター養成研修実施
- ・第2期WTT教員募集



オープンキャンパスに 参加します!

平成22年8月6日(金)と7日(土)に行われる岡山大学オープンキャンパスに男女共同参画室が参加します。「男女共同参画コーナー」のブースで、岡山县・岡山市と連携して、これからの人生設計に役立つ情報を満載した資料やパネルなどを多数用意してお待ちしています。男女共同参画室員がおりますので、気軽にのぞいてみてください。理系を目指す方には朗報がみつかると思います。また、男女共同参画に関するパネルも多数展示します。詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/prospective/koukai01.html>

ニュースレター創刊号（第4面）（平成22年7月発行）



男女共同参画室員からのメッセージ



岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が開設して、はやくも1年半近くの歳月が流れました。今後も室員一同、力を合わせて男女共同参画社会形成へ向けて努力して参ります。



男女共同参画室
副室長
富岡 憲治

昨年度から男女共同参画室の室員を務めています。本学が、教職員・学生にとって男女を問わず生き生きと働き・学ぶ場となるためには、ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭に費やす時間のバランス)を始めとして多くの克服すべき問題があります。それらの問題の解決に向けて努力したいと思っています。

(岡山大学大学院自然科学研究科 教授)



広報・意識啓発推進
部門長
中谷 文美

今年から発足した広報・意識啓発推進部門では、さまざまな媒体を使って情報発信していくとともに、学内外のさまざまな立場の方が集い、意見を交換し合えるような場づくりを心がけていきます。

主な活動の柱としては、①ニュースレターの発行(年3回予定)、②交流サロンの開催、③シンポジウムの企画、があります。そのほか、オープンキャンパスや学園祭でも「進化プラン」の内容や、男女共同参画室の取り組みをご紹介します。

(岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授)



環境整備・支援推進
部門長
五福 明夫

本学の女性教職員のセンス、パワーに圧倒されながらも、男女共同参画に関連する活動を通して、異なる立場からの見方や考え方を吸収して個人的にも成長したいと考えています。

環境整備・支援推進部門では、研究サポート体制の確立とそれによる研究者支援、相談室の運営などの活動を行っており、関連してメンター養成研修の開催や人材登録バンクの充実を図っていきたくと考えています。

本学にとっては新しい活動ですので、斬新なアイデアをお待ちしております。

(岡山大学大学院自然科学研究科 教授)



次世代女性研究者
育成推進部門長
坂口 英

昨年12月から、男女共同参画室に加わりました。室会議や交流サロン、シンポジウムへの参加を通じて、女性教員のサポート体制や男性の意識改革などの必要性について痛感しています。農学部では現在女性教員数は1と少ないですが、農学の幅広い学問分野の中で、女性の大学院進学者や研究者数は少なくはないので、安心して利用できるサポート体制が整備されれば、今後農学部での女性教員の増加は大いに期待できるものと考えています。

(岡山大学大学院自然科学研究科 教授)



男女共同参画室
特任教授
本水 昌二

平成21年度採択「学部・岡大発女性研究者が育つ進化プラン」推進の一環として、交流サロン、国際シンポジウム、ウーマン・デニユア・トラック(WTT)制度立ち上げ等、多くの方々のご協力により行うことができました。男女共同参画社会、女性研究者支援の基本理念としては、「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」が最重要と考えます。岡大の変貌を期待し、全ての大学構成員で今一度WLBを考えてみましょう。

その他の室員

片岡 仁美	(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授)
根岸 友恵	(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授)
篠原 陽子	(岡山大学大学院教育学研究科 講師)
白髭 明	(岡山大学自然系研究科等事務部総務課長)
小西 充	(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等事務部総務課員)
早川 みどり	(岡山大学総務・企画部人事課 主査)
藤井 雅美	(男女共同参画室 特任助教)
保坂 雅子	(男女共同参画室 特任助教)
増田 治美	(男女共同参画室 事務職員)
松田 千寿栄	(男女共同参画室 事務職員)
門脇 孝弘	(男女共同参画室 技術職員)

編集後記

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室では、昨年度の国際シンポジウムをはじめとして、岡山県や岡山市と協働し、地域連携の推進に努めています。本事業も2年目をむかえ、さらなる躍進に向けて室員一同、気持ちも新たに邁進していく所存です。今後ともこのニュースレターをよろしくお願いたします。

お知らせ

男女共同参画室では、ロゴマークを全国から募集し、応募のあった13作品の中からロゴマークを決定しました。採用作品を右に示しておりますが、岡山大学の「O」をモチーフに、岡山特産のマスカットをイメージさせて描かれ、未来をみつめる男女を表すと同時に、創造性・革新性・柔軟性をそれぞれ意味する三つの輪をつなぎ合わせることで共生社会が表されています。



お問い合わせ



国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL & FAX: 086-251-7011
E-mail: san.kaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinj/diversity/danjo/

ニュースレター第2号 (第1面) (平成22年11月発行)

第2号
2010.11



平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」
学部・岡大発 女性研究者が育つ進化フラン
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



Newsletter

もくじ

男女共同参画室の取り組み…………… 1-2

岡山大学に息づく研究者たちの軌跡…………… 3

イベントなどのお知らせ…………… 4

男女共同参画室員からのメッセージ…………… 4

★男女共同参画室の取り組み★

★第1回男女共同参画に関する管理職セミナーを実施しました

9月10日、本部棟第一会議室で「第1回男女共同参画に関する管理職セミナー」を実施しました。この管理職セミナーは、前東北大学理事（人事労務・キャンパス環境・男女共同参画担当）である折原守氏を講師としてお招きし、本学の管理職員を対象に行いました。

セミナーには、役員4名を含む50名もの管理職員が多忙な業務の合間を縫って参加されました。講師の折原守氏からは、東北大学におけるベビーシッター利用料補助制度など全国から注目を浴びた育児支援を含む教々の取り組みや、大学中枢部への女性参画の現状に関する講演をしていただきました。また「ぜひ第2回の管理職セミナーも実施してください。」と励まし言葉もいただきました。

セミナーでは沖陽子室長が本学における男女共同参画の取組状況を報告すると共に本年4月に採用されたウーマンテニュアトラック教員の活躍等を紹介いたしました。最後に千葉喬三学長から「男女共同参画に関する本学構成員の意識を変えていく必要がある。」という強い意思表示があり、セミナーは盛況のうちに締めくくられました。



★第1回外部資金獲得セミナーを開催しました

9月16日に、大学病院キャリアセンターと共同で外部資金獲得セミナーを実施しました。セミナーではまず、「科学研究費補助金申請書の書き方」に関する講演を、研究推進産学連携機構の阪田祐作研究推進部長に行ってくださいました。次に、「私の研究費獲得経験」と題して、大学院医歯薬学総合研究科の池亀美華准教授及び大守伊織助教に、研究費獲得に関する経験に加え、研究がうまくいかない時期も含め研究活動を継続的に進めていく上で有益なアドバイスを提供していただきました。研究費を獲得することが「自立・自由・自信」につながる、ことであるという池亀准教授の言葉には参加者一同が納得しました。

このセミナーは男女共同参画室が鹿田地区で実施した初めての事業となりましたが、1時間半の予定時間を超えた後も参加者の外部資金獲得に関する関心の高さが窺われました。



ニュースレター第2号（第2面）（平成22年11月発行）

男女共同参画室の取り組み

★第2回交流サロンを開催しました

7月30日、「育児と仕事の両立～どんな感じ？何が問題？」と題し、第2回交流サロン&キャリアカフェを開催しました。今回は社会文化科学研究科の松本直子准教授、奥平寛子准教授、同研究科教務学生係長の中村美紀子氏から、育児と仕事の両立をめぐる話題提供が行われたあと、活発な意見が交わされました。

働く女性が将来を考えると、育児と仕事の両立は避けて通れない悩みといえるでしょう。参加者からは「育児休暇を長期間取りたくても、早く復帰しなければならない雰囲気があり取りにくい。」「保育園に通っている間は安心だが、小学校入学が大きな山。学童保育はあるけど3年生まで。」など、さまざまな問題点や課題についての意見が出ました。また、今回は初めての女性サポート相談室のキャリアカフェとの合同イベントでもあり、活気の中に和やかさも漂う新たなスタイルのサロンとなりました。



★第2回・第3回サイエンス・トークを開催しました



8月26日、第2回おかやまサイエンス・トークがノートルダム清心学園清心女子高等学校で、9月28日、第3回おかやまサイエンス・トークが、岡山県立総社高等学校で開催されました。

WTT教員と大学院生の研究紹介のあと、フリートークでは活発な意見交換が行われました。



★第3回キャリアカフェを開催しました

9月29日、女性サポート相談室主催の第3回キャリアカフェが医学部記念会館3階の女性サポート相談室で行われ、「仕事と子育ての両立に関する課題」について話し合われました。当日はお昼休みの時間を使って開催され、持ち寄りのお弁当を食べながらリラックスした雰囲気の中、さまざまな意見が出されました。参加者からは、妊娠・出産に伴う不安を相談できる人が職場内には少ないことや、妊娠・出産に伴う休暇制度を気兼ねなしに使うための職場の理解を求める声がありました。多くの課題が出された中、共通点としてみえてきたのは、職場内の適切なコミュニケーションの不足であり、それを補うことこそが女性たちへの心強いサポートになりうるということでした。相談員からは、女性サポート相談室が妊娠・出産・職場復帰にかかわる不安に対する相談と情報の提供を行っていることが紹介されました。

女性が生き生きと子育てと仕事をするためには多くの問題がありますが、女性サポート相談室では、学内の人と人とのつながりを作りその中で互いに支えあうことが両立支援の1つと考え、こうした活動を実施しています。仕事と子育ての両立に関する問題は、女性一人の問題ではなく男女双方、また組織全体の問題です。今後は、男性職員の方にもご参加いただき、働きやすく子育てしやすい職場の雰囲気作りを一緒に考えてもらえたらと思っています。

女性サポート相談室の利用案内 Tel: 086-251-7011 E-mail: support-w@adm.okayama-u.ac.jp

★オープンキャンパスに参加しました

8月6日・7日、岡山大学オープンキャンパスが開催されました。今回はダイバーシティ推進本部男女共同参画室としては初めての参加でしたが、高校生および来場者とのトークも充実したものになりました。また、岡山県男女共同参画推進センター、岡山市男女共同参画推進センターとのコラボレーションで男女共同参画に関するパネル展示も行いました。

高校生への広報・意識啓発という課題に向けての新たな取り組みの中で、高校生、保護者、教員のみなさんが熱心に耳を傾けてくださいました。



岡山大学に息づく研究者たちの軌跡

★好きなことを追求して★

私は情報工学科でヒューマンコンピュータインタラクションを専門としています。簡単に言えば人間はどのようにコンピュータを使うのがよいのか、コンピュータはどのように人間に情報を提供するのがよいのか、という方法論について研究しています。例えば現在は携帯機器に内蔵されている加速度センサを使ってコンピュータを操作する方法に取り組んでいます。

そもそも、私は研究者ではなく、技術者になりたいと思っていました。やりたいことができなくて困っているお客様を技術で助ける、そんな仕事をしたくて、大学卒業後企業に就職しました。ところが実際に企業の技術者になるには、私には問題があることを発見したのです。

それは、1. お金儲けに興味がない、2. 他人がしていることに興味がない、ということです。

これは、利益を出さなければならない企業で、常に最新の技術を追っかけなければならない技術者にとっては致命的な欠点だと思いました。そこで、企業を辞め、大学院に入り、基本的にはお金儲けのことを考えなくてよく、自分の興味を追求することが許される研究者になる道を選びました。

これまで苦労したことは、思うように研究成果があがらないことくらいなのですが(笑)、その分、配偶者には苦労をかけていると思います。最初から遠距離結婚だったのですが、子どもが生まれ、彼は約8ヶ月ほど育児休暇を取って子どもの世話をしてくれました。その後再び彼は単身赴任で仕事に戻ったのですが、子どもと離れて暮らすことに耐えられなくて結局仕事を辞め、今は一緒に暮らしながら職探しをしています。その間、一度も私が仕事をするのに対して意見をいうことなく、私は自由に好きなことをすることができています。彼をはじめとして私を支えてくれている家族に感謝しています。

★医療教育に捧ぐ★

私は現在、主に薬学部6年制教育の中でも臨床教育に携わっていますが、これまで私が経験してきた事、特に臨床現場での失敗談などを学生さんへ伝えることを心がけています。昭和大学を卒業後、北大薬学部・東工大生命理工学部・聖マリアンナ医大医学部などで研究員・助手を13年経験してから大学病院の薬剤師を8年してきたという経緯があります。臨床研究を行うため、実際に薬物治療をしている患者さんや医師・看護師と会話をし、臨床を自分の目で知ることが薬剤師を経験した一番大きな理由でした。

現在の研究内容は様々な臨床症例に対し薬剤師がどのように関与すればよいか、その問題解決方法を解明することがテーマです。例えば、食事摂取が困難で低栄養状態にある患者の場合、消化管機能の低下やそれに伴い全身的な合併症を来しますが、そうなる前に消化管機能を試験的に調べて予防する方法を見つける研究などを行っています。

プライベートでは、子供が小さい時にはほとんど相手してあげられる時間をとれなかったのが心残りです。息子が小学生になってようやく休日に一緒に過ごす時間を作り、岡山に来る前は3年間ほど息子が入っていた少年野球チームの監督を経験しました。小学生に野球の指導をする中で、どうすれば人に物事を理解できるようにうまく伝えられるかという事を、息子を通じて教えてもらったように感じます。

私の場合、これまで幾つかの職場を経験して、多くの恩師や友人、そして理解ある家族に恵まれたことに感謝しています。今後も岡山大学の学生諸君に、人と人との繋がりが大切であることを伝え、卒業後グローバルに活躍してくれることを期待しています。

自然科学研究科知能ソフトウェア基盤学

笹倉万里子 助教

医療教育統合センター薬学教育部門

名倉弘哲 准教授



ニュースレター第2号(第4面) (平成22年11月発行)

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室ではこれからも、たくさんの事業に取り組みます。女性研究者の支援はもちろん、皆様が働きやすい環境の大学づくりをめざして頑張ります。

★研究支援員事業について

男女共同参画室では、平成21年度より家庭責任と仕事の両立のための環境整備の一環として、出産・育児・介護等の理由で研究時間の確保が困難な理系の常勤女性教員に対する研究活動の支援を試行的に行ってきました。平成22年8月に学長裁定により「岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室研究支援員事業要項」を制定し、研究支援員事業の本格的な運用を始めております。

この度、第1次利用者の募集を行い選考した結果、10月16日付で1名の女性教員に対して研究支援員を配置いたしました。11月1日現在、これまでの利用者を含め合計4名の女性教員がそれぞれ1～2名の研究支援員に週20時間の研究支援を受けています。平成23年度利用分の募集は平成23年1月頃になる予定です。

なお、男女共同参画室では岡山大学人材登録バンクを設置して研究支援員として女性教員を支援していただけの方を随時募集しております。関心をお持ちの方は男女共同参画室までお問い合わせ下さい。

★平成22年度男女共同参画推進シンポジウム

日時：2010年12月18日[土] 14:00から17:00まで
場所：岡山大学創立五十周年記念館 2階会議室

今年度の「男女共同参画推進シンポジウム」は「ダイバーシティこそが活力を生む～女性研究者が活躍できる組織作りをめざして～」というテーマのもと開催します。

講師としてお招きする岩切貴乃氏は、(株)東芝で海外P.Cの商品企画、マーケティング、グローバルセールス、経営企画等を経て、2004年からは人事部門に異動されています。「従業員一人ひとりが共に自分らしく持てる力を十分に発揮する」会社・組織づくりを目指して、社長直轄組織「きらめきライフ&キャリア推進室」の発足時から携わり、2007年から現職の多様性推進部長を務めておられます。

もうお一人の講師、美馬のゆり氏のご専門は、認知科学および教育学です。公立はこだて未来大学の設立準備にかかわり、2000年度の創立時に教授に就任されました。2003～2006年は日本科学未来館副館長も併任し、現在はNHK教育テレビ「サイエンスZERO」にもゲスト出演しておられます。

週末は各地での講演に飛び回っておられるお2人を、今回は岡山にお迎えすることになりました。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



男女共同参画室員からのメッセージ

片岡 仁美
(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授)

環境整備・支援推進部門の仕事とともに、鹿田地区での行事や、医療人支援の取組との共催行事の運営に携わっています。男女共同参画室では様々な分野の室員の皆様とともに働くことで、「多様性のある組織」の良さを実感しています。

根岸 友恵
(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授)

男女共同参画室のメンバーとして1年。私自身はもう若手や子育ての支援をいただく立場ではなくなっていますが、これまでいろいろな状況で教育研究を続けてきた中で感じたことを次世代の方の支援につなげていければと思って活動させていただいています。

篠原 陽子
(岡山大学大学院教育学研究科 講師)

昨年12月よりメンバーになりました。次世代女性研究者育成推進部門のおかやまサイエンス・トークでは、頼もしい高校生と出会うことができました。

多様性を認め、誰もが活躍できる環境を整備するために、室員の皆さんと一緒に活動しています。

編集後記

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室より、ニュースレター第2号をお届けします。これまで取り組んできた事業内容をご紹介しますと共に、今回は学内から2名の研究者に登場していただきました。お二人の軌跡を参考にしつつ、我々の取り組みが次世代研究者の活躍の手助けになりますよう、願っております。

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号

TEL & FAX: 086-251-7011

E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/



ニュースレターは男女共同参画室のホームページにて公開している。
(URL:<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/>)

IV-4 (2) 男女共同参画室ホームページ開設及び現況

平成22年3月に男女共同参画室のホームページを公開した。開設以降は男女共同参画室の事業案内やイベントの開催案内等を随時掲載し、内容の充実を図っている。また、平成22年11月～平成23年1月の3ヶ月間に、カウンタを設置してアクセス数の統計を取ったところ、一日あたり平均20人、一月あたり平均610人の閲覧者を得ていることが分かった。

■ トップページ (H23.2.1 現在)

The screenshot shows the homepage of the Gender Equality Promotion Department at Okuyama University. The header includes the university's name in Japanese and English, a search bar, and navigation links. The main banner features the text '男女共同参画室' (Gender Equality Promotion Room) and a colorful illustration of a sun, a fish, and a plant. Below the banner, there is a grid of content blocks:

- 重要なお知らせ** (Important Notice): 第4回交流サロン&第2回MUSCAT Jamboree開催(2月1日開催)
- 男女共同参画室** (Gender Equality Promotion Room):
 - 男女共同参画室について
 - 学部・国大発 女性研究者が育つ進化プラン
 - ご挨拶
 - スタッフ紹介
 - ロマーク
 - お問い合わせ
 - 概要
 - 実施詳細
 - 実施内容
 - ミッションステートメント
- イベントのお知らせ** (Event Notice):
 - 第4回交流サロン&第2回MUSCAT Jamboree開催(2011.2.7)
 - 研究スキルアップ講座第3弾「共同研究の心得」(2011.3.9)
 - 市民講座「アフリカ舞踊におけるジェンダー・イシューズの世界」(2011.1.23)
 - 研究シーズの時代別進化(2011.1.21)
 - 平成22年度 男女共同参画室推進シンポジウム(2010.12.18)
 - ニュースレター第2巻(2010年11月発行) PDF
 - メンタルケアに関するセミナー(2010.11.11)
 - 平成22年度交流サロン
 - 外部産学連携セミナー(2010.9.16)
 - 管理職セミナー(2010.9.10)
 - ニュースレター 創刊号(2010年7月発行) PDF
 - 平成21年度活動報告
- 活動報告** (Activity Report)
- ウーマン・テニュアトラック(WTT)教員** (Women Tenure Track Faculty):
 - ウーマン・テニュアトラック教員制度について
 - 平成22年度採用 WTT教員紹介
 - 平成20年度 WTT教員 募集詳細
 - 研究支援員募集
 - 平成22年度第1次(研究支援員募集)採用者の募集について
 - 女性研究者向け研究助成等公募情報
 - 岡山大学における女性研究者の研宄環境
- 女性研究者支援** (Female Researcher Support)
- 女性サポート相談室** (Female Support Consultation Room):
 - 女性サポート相談室について
 - ご挨拶の頁はこちら
 - Casey Cafe
 - 相談窓口
 - 岡山大学における理系大学院生の研究生活の実態およびニーズに関する調査」のご報告
 - 岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果
 - 岡山大学の男女共同参画推進に関するアンケート調査結果
- 人材登録バンク** (Human Resource Registration Bank):
 - 人材登録バンクについて
 - 登録はこちらから
 - おかやまサイエンス・トーク
 - おかやまサイエンス・トークについて
 - 過去の実施状況
- あかやまサイエンス・トーク** (Akayama Science Talk)
- 保育施設** (Childcare Facility):
 - おかやま園
 - かひの定規堂クラブ
 - ますかつと南見保育園
 - 産院へのリンク
 - 産院からのお知らせ
- 産院リンク** (Hospital Link)
- 産院からのお知らせ** (Notice from Hospital)

男女共同参画室ホームページコンテンツの例

■ ご挨拶

ご挨拶

「学都・岡山大学」から発信する女性研究者が育つ進化プラン

岡山大学は、大規模総合大学で熱心社会貢献。「学都・岡山大学」にて中国・韓国地域の「学都」となることを目指しています。

このため、平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」の取組を実施。ダイバーシティ推進本部が中心となり男女共同参画で「高層型人材育成進化プラン」を策定し、岡山大学女性研究者の「学都」での社会貢献の推進に努めます。学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。



岡山大学長 西村 和生

男女共同参画室からのメッセージ～高層型人材育成進化プランとは～

岡山大学ダイバーシティ推進本部が推進する高層型人材育成進化プランは、平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。

本プランの目的は、女性研究者が育つ進化プランとして、高層型人材育成を進め、学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。研究サポート「高層型人材育成進化プラン」を推進し、高層型人材育成を進めます。



岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長 沖 陽子

■ 人材登録バンク

岡山大学ダイバーシティ推進本部

サポート利用者登録

登録情報

氏名	
性別	
年齢	
職名	
サポート内容(専門分野)	
所属機関	
連絡先(電話番号)	
メールアドレス	

登録ボタン

■ 女性サポート相談室

女性サポート相談室

男女共同参画室では、「学都・岡山大学」女性研究者が育つ進化プランに代わり、研究サポート体制の充実、雇用促進、人材育成および意識変革を実施します。

この進化プランの一環として、出産・育児・介護・子育て支援、女性研究者の「学都」での社会貢献の推進に努めます。学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。

1. 利用対象者
本学の教職員、女性研究者、女子学生の皆様にご利用できます。ただし、女性サポートに関する相談では男性の方の相談も受け付けます。

2. 利用時間と場所
津島地区 水・金曜日 10時～12時 13時～16時
岡崎地区 月曜日 10時～12時 13時～16時

3. 利用内容
岡山大学に関するすべての女性の悩みに対応します。

4. 相談員
小柳千穂(おぼたれほる)

5. ご利用のしるしから



■ 学都・岡大発

女性研究者が育つ進化プランについて

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プランについて

岡山大学では、平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。

推進計画	平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。
推進計画	平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。
推進計画	平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。

1. 女性研究者の人数及び今後の見通し
岡山大学には、平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。


2. 女性研究者の育成に資する環境の整備
岡山大学では、平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。

3. 女性研究者の具体的な支援
岡山大学では、平成21年度から24年度までの期間「女性研究者支援モデル育成」を推進し、高層型人材育成を進めます。学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。

■ ウーマン・テニュア・トラック教員制度

ウーマン・テニュア・トラック教員制度で、女性若手研究者の採用をサポート！

学部の研究活動の推進に資するためウーマン・テニュア・トラック教員(OWTT)として採用し、5年以内に高層型教員(OWTT)へ昇格し、高層型教員としての待遇を受けながら研究活動を行います。学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。



1. 平成21年度 WTT実施要領 2011
2. WTT定章(2011)

※2012年度からウーマン・テニュア・トラック教員制度を、平成21年度開始予定。

■ 研究者支援員事業

研究者支援員事業について

1. 目的
岡山大学では、学都・岡山大学から発信していくことにより、女性研究者の支援が行われます。

2. 利用対象者
本学の教職員、女性研究者、女子学生の皆様にご利用できます。ただし、女性サポートに関する相談では男性の方の相談も受け付けます。

3. 利用時間と場所
津島地区 水・金曜日 10時～12時 13時～16時
岡崎地区 月曜日 10時～12時 13時～16時

4. 相談員
小柳千穂(おぼたれほる)

5. ご利用のしるしから

男女共同参画室ホームページコンテンツマップ (H23.2.1 現在)

男女共同参画室

- 男女共同参画室について
 - ご挨拶
 - スタッフ紹介
 - ロゴマーク
 - お問い合わせ
- 学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン
 - 概要
 - 実施体制
 - 実施内容
 - ミッションステートメント
- イベントのお知らせ
 - 第4回交流サロン & 第2回 MUSCAT Juniorミーティング(2011.2.7)
 - 研究スキルアップ講座第3弾 「共同研究の心得」(2011.3.9)
- 活動報告
 - 市民協働事業「アフリカ諸国におけるジェンダー・イシューズの現状！」(2011.1.23)
 - 研究シーズの知的財産化(2011.1.21)
 - 平成22年度 男女共同参画室推進シンポジウム(2010.12.18)
 - ニューズレター第2号(2010年11月発刊)
 - メンタリングに関するセミナー(2010.11.11)
 - 平成22年度交流サロン
 - 外部資金獲得セミナー(2010.9.16)
 - 管理職セミナー(2010.9.10)
 - ニューズレター創刊号(2010年7月発刊)
 - 平成21年度活動報告
- ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員
 - ウーマン・テニユア・トラック教員制度について
 - 平成22年度採用WTT教員紹介
 - 平成23年度WTT教員 募集締切
- 女性研究者支援
 - 研究支援員事業
 - 平成23年度第1次「研究支援員事業」利用者の募集について
 - 女性研究者向け研究助成等公募情報
 - 岡山大学における女性研究者の研究環境
- 女性サポート相談室
 - 女性サポート相談室について
 - ご相談の方はこちら
 - Career Cafe
 - 相談室だより
- アンケート・インタビュー調査
 - 「岡山大学における理系大学院生の研究生活の実態およびニーズに関する調査」のご報告
 - 岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査結果
 - 岡山大学の男女共同参画推進に関するアンケート調査結果
- 人材登録バンク
 - 人材登録バンクについて
 - 登録はこちらから
- おかやまサイエンス・トーク
 - おかやまサイエンス・トークについて
 - 過去の実施状況
- 保育施設
 - なかよし園
 - かいのき児童クラブ
 - ますかっと病児保育ルーム
- 他機関情報
 - 他機関へのリンク
 - 他機関からのお知らせ

IV-4 (3) 岡山大学オープンキャンパス

① 概要

1. 日時：平成22年8月6日（金），7日（土） 13:00～16:00
2. 会場：岡山大学 大学会館1階ホール
3. 対象者：高校生，引率教員，保護者
4. 実施：岡山大学アドミッションセンター
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室，岡山県，岡山市
5. 内容：男女共同参画コーナーの設置（パネル展示，ビデオ上映，資料配布）

② 実施内容

8月6日から7日にかけて開催された岡山大学オープンキャンパス2010において，岡山県，岡山市と協働して男女共同参画コーナーを設置し，高校生及び来場者とのトーキングを通じた情報提供を行った。

オープンキャンパスへの参加は初の試みであったが，岡山県，岡山市の協力の下，パネル展示，ビデオ上映など内容を充実させることができた。その結果，2日間で約170名もの来場者があり，理系を目指す女子学生に役立つ情報や男女共同参画に関する情報など，これからの人生設計に役立つ情報を発信することができた。

また，高校生のみならず引率教員や保護者の方々が熱心に耳を傾けて下さり，広範な広報活動を実施することができた。



男女共同参画室員とのトーキング

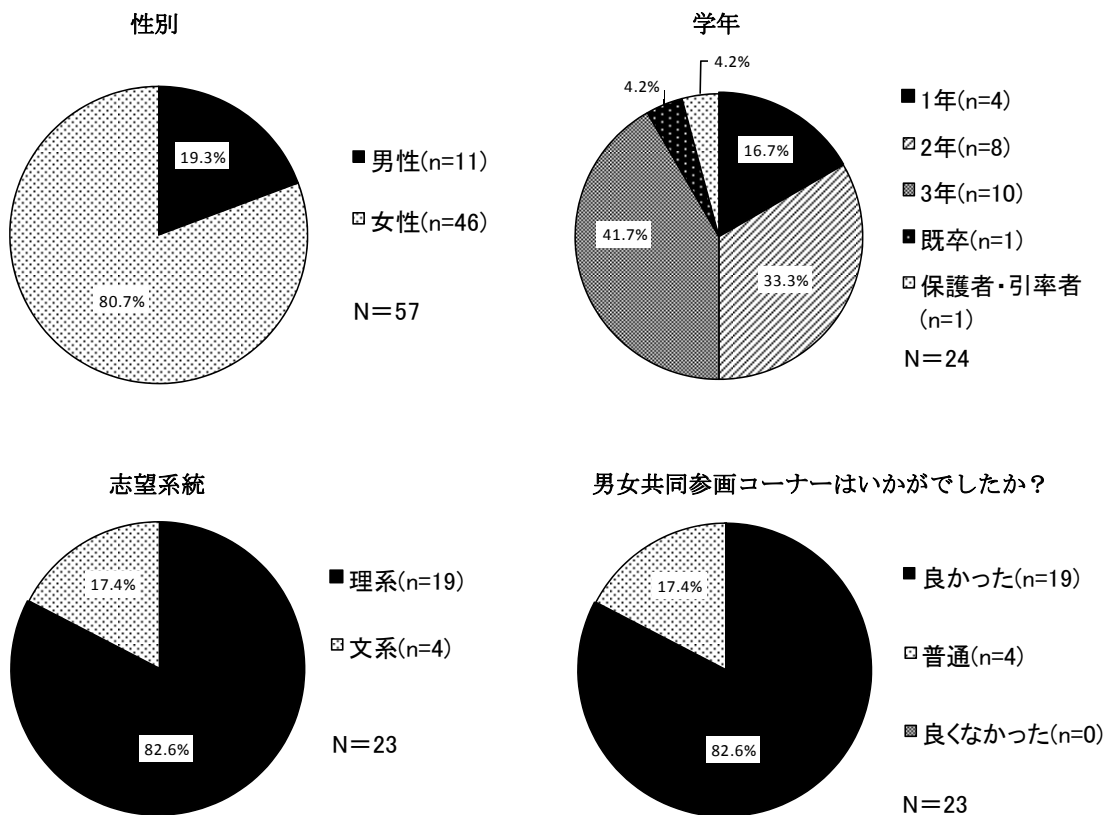


パネル展示（岡山県）



ビデオ上映（岡山市）

③アンケート結果（名簿記入57名，アンケート回収24名）



岡山大学オープンキャンパス2010 パンフレットから抜粋

OPEN CAMPUS 2010 8/6 Fri - 7 Sat

2010年入試説明会日程

会場	時間	内容
津島キャンパス	8月6日(金) 10:00-11:30	岡山大学総合センター1F 入試説明会
	8月6日(金) 13:00-14:30	岡山大学総合センター1F 入試説明会
	8月7日(土) 10:00-11:30	岡山大学総合センター1F 入試説明会
	8月7日(土) 13:00-14:30	岡山大学総合センター1F 入試説明会
学生ホール	8月6日(金) 10:00-11:30	学生相談コーナー
	8月6日(金) 13:00-14:30	学生相談コーナー
	8月7日(土) 10:00-11:30	学生相談コーナー
	8月7日(土) 13:00-14:30	学生相談コーナー
講堂	8月6日(金) 10:00-11:30	入試説明会
	8月6日(金) 13:00-14:30	入試説明会
	8月7日(土) 10:00-11:30	入試説明会
	8月7日(土) 13:00-14:30	入試説明会

津島キャンパス：大会館1F 総合案内センター

A 学生相談コーナー 先陣たちの声を聞こう！ 8月6日(金)・8月7日(土) 9:30-16:00 在学生による個別相談セッション、学生生活、奨励制度、行方相談してください。	B 学生サポート 学生生活で気になる事はココ！ 8月6日(金)・8月7日(土) 9:30-16:00 入学先読、授業料免除、奨学金、課外(サークル)活動、女子学生支援課。	C 入試について ここでは聞けない入試の話 8月6日(金)・8月7日(土) 9:30-12:30 入試説明、個別相談 13:30-16:30 入試説明、個別相談。	D 海外留学案内 世界に飛び出せ！未来の岡大生 8月6日(金)・8月7日(土) 10:00-12:00 個別相談(随時実施) 11:00-11:30 第1回海外留学の紹介 13:00-16:00 個別相談(随時実施) 13:00-18:30 第2回海外留学の紹介 18:00-19:30 第3回海外留学の紹介
E 就職サポート 気になる卒業後の就職先は...? 8月6日(金)・8月7日(土) 10:00-13:00 ネット相談 キャリアガイダンス 13:00-15:00 キャリア相談 キャリアガイダンス	F 外国語教育案内 コミュニケーション能力を高めよう 8月6日(金)・8月7日(土) 10:00-16:00 外国語についての個別相談	G 生協コーナー 初めての一人暮らしも安心です！ 8月6日(金)・8月7日(土) 9:30-16:00 下宿相談室	H 男女共同参画コーナー これからの入学生計に役立つ情報！ 8月6日(金)・8月7日(土) 10:00-16:00 男女共同参画室とのトークショー ●男女共同参画室に付 ●理系6科から女子学生にメッセージ

※受付時に説明資料を配布します。◎ 聴講は南校舎1階・北校舎1階・東校舎1階・津島キャンパス、岡山大学生協田舎堂(津島キャンパス)等が利用できます。

IV-4 (4) 男女共同参画室ロゴマーク

① 概要

平成22年4月22日～5月20日の期間に、「未来につながる男女共同参画社会をイメージさせるデザイン」「創造性・革新性・柔軟性を高め、共生社会を実現していくイメージ」をコンセプトに男女共同参画室のロゴマークを募集したところ、全国各地から13点の応募があった。

厳正なる選考の結果、京都市在住の居関孝男氏制作の作品を「岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室」のロゴマークに決定した。ロゴマークは、岡山大学が推進する「男女共同参画」に、本学構成員や延いては全国の方々にも広く関心をもっていただくことを目的として、広報印刷物などに活用している。

②男女共同参画室ロゴマーク



岡山大学の「O」をモチーフに、岡山特産のマスクットをイメージして描かれ、未来をみつめる男女を表すと同時に、創造性・革新性・柔軟性をそれぞれ意味する三つの輪をつなぎ合わせることで共生社会が表されている。

③ 表彰式

2010年7月23日に表彰式を挙行し、田中ダイバーシティ推進本部長（理事・副学長）から居関氏に表彰状と副賞が贈られた。



左：ロゴマーク制作者の居関氏
右：田中ダイバーシティ推進本部長
（理事・副学長）



左下：居関氏／右下：田中本部長（理事・副学長）
左上：本水教授／右上：沖室長

IV-4 (5) 新聞報道

新聞各社への掲載一覧

日付	新聞社名等	紹介事業	参考記事 No.
平成 21 年 7 月 13 日	山陽新聞 朝刊	女性研究者支援事業紹介	No. 1
平成 21 年 7 月 27 日	読売新聞 朝刊	女性研究者支援事業紹介	
平成 21 年 9 月 28 日	山陽新聞 朝刊	第 1 回交流サロン	No. 2
平成 22 年 2 月 27 日	リビングおかやま	岡山大学男女共同参画推進国際シンポジウム	
平成 22 年 3 月 10 日	山陽新聞 朝刊	女性サポート相談室開設	No. 3
平成 22 年 7 月 2 日	山陽新聞 朝刊	第 1 回おかやまサイエンス・トーク	No. 4
平成 22 年 8 月 27 日	毎日新聞 朝刊	第 2 回おかやまサイエンス・トーク	No. 5
平成 22 年 8 月 28 日	山陽新聞 朝刊	第 2 回おかやまサイエンス・トーク	No. 6
平成 22 年 9 月 29 日	山陽新聞 朝刊	第 3 回おかやまサイエンス・トーク	No. 7
平成 22 年 10 月 4 日	文教ニュース	外部資金獲得セミナー	
平成 22 年 10 月 9 日	山陽新聞 朝刊	第 1 回岡山 MUSCAT フォーラム	
平成 22 年 10 月 23 日	リビングおかやま	第 3 回交流サロン	
平成 22 年 12 月 2 日	山陽新聞 朝刊	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム	No. 8
平成 22 年 12 月 2 日	山陽新聞 夕刊	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム	No. 9
平成 22 年 12 月 3 日	毎日新聞 朝刊	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム	No. 10
平成 22 年 12 月 3 日	文教速報	メンタリングに関するセミナー	
平成 22 年 12 月 9 日	朝日新聞 朝刊	女性研究者支援の取組み紹介	No. 11
平成 22 年 12 月 10 日	朝日新聞 朝刊	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム	No. 12

平成 22 年 12 月 11 日	読売新聞 朝刊	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム	
平成 23 年 1 月 13 日	山陽新聞 夕刊	市民協働事業 講演会&ワークショップ	
平成 23 年 1 月 20 日	山陽新聞 朝刊	市民協働事業 講演会&ワークショップ	
平成 23 年 1 月 21 日	山陽新聞 朝刊	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム及び女性研究者育成の取組について	No. 1 3
平成 23 年 1 月 28 日	文教速報	平成 22 年度男女共同参画推進シンポジウム	

【No.1】 事業紹介 (2009.7.13 山陽新聞朝刊)

自然科学系の女性研究者

家庭と両立支援

結婚や出産で研究の道を断念しないで。岡山大は本年度から自然科学系の女性研究者を支援するプロジェクトに着手する。公募で女性研究者を新たに雇用し、補助者を付けて研究の負担を緩和、家庭と両立できる支援体制をつくり、優秀な人材を育てていく。

チームで負担緩和

同大によると、大学院では自然科学系の女子学生は10%、博士課程修了者などは40%だが、教員だと通算4%に落ちる。理工系で技術職員、研究補助のチームを組む。学内のさらなる女性を育てる。学内研究者の「一人計画」では、来年度が登壇、バックを設立、研究成果を評価、常勤採用するかどうかを決める。採用は「決して過剰なサイエンスをやるわけではないが、現状では研究が家庭が二重負担を迫られる女性が多い。両立があるから、おさるの舌を噛まない人たちに道を提供したい」と話している。(岡野祥樹)

同大男女雇用機会均等委員会

岡山大、本年度着手

プロジェクト名は「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」。本年度、国の科学研究振興費に比べ、年約3500万円が年間助成される。

「学内研究者の一人計画」では、来年度が登壇、バックを設立、研究成果を評価、常勤採用するかどうかを決める。採用は「決して過剰なサイエンスをやるわけではないが、現状では研究が家庭が二重負担を迫られる女性が多い。両立があるから、おさるの舌を噛まない人たちに道を提供したい」と話している。(岡野祥樹)

同大男女雇用機会均等委員会

女性研究者育成方策考えよう

岡山大、本年度着手した女性研究者を育てるプロジェクト「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の第1回交流サロンを29日午後1時から岡山市津島中の同大創立50周年記念館で開く。入場無料。

新潟大女性研究者支援室の佐藤孝教授が「女性研究者支援室の活動と男性教員への働きかけの難しさ」と題して講演。岡山大の沖陽子男女共同参画室長

をコーディネーターに佐藤教授や学内の研究者らを集めてパネルディスカッションも行う。

問い合わせは同大男女共同参画室(086-109117011)。

【No.2】 第1回交流サロン (2009.9.28 山陽新聞朝刊)

女性研究者育成方策考えよう

岡山大、本年度着手した女性研究者を育てるプロジェクト「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の第1回交流サロンを29日午後1時から岡山市津島中の同大創立50周年記念館で開く。入場無料。

新潟大女性研究者支援室の佐藤孝教授が「女性研究者支援室の活動と男性教員への働きかけの難しさ」と題して講演。岡山大の沖陽子男女共同参画室長

をコーディネーターに佐藤教授や学内の研究者らを集めてパネルディスカッションも行う。

問い合わせは同大男女共同参画室(086-109117011)。

山陽新聞社掲載了承済み

【No.3】女性サポート相談室開設 (2010.3.10 山陽新聞朝刊)



山陽新聞社掲載了承済み

【No.4】第1回おかやまサイエンス・トーク (2010.7.2 山陽新聞朝刊)

岡山大(岡山市北区津島中)の女性科学者が高校生らに成果や研究者への道を紹介する「おかやまサイエンス・トーク」が1日、同校の一宮高であり、理科3年生約75人が理系分野への関心を深めた。

研究内容や成果紹介

岡山大女性科学者
一宮高生 関心深める

文部科学省の女性研究者支援モデル育成事業の一環で初めて開催。県内の高校などを対象に本年度5回程度を予定している。

大学院自然科学研究科の吉岡美保特任助教(植物生理学)が「植物の生存戦略」と題し、強い光や高温下で光合成能力が低下する原因や回復の仕組みを解説。大学院生の田崎ゆかりさん(動物生殖生理学)は牛の繁殖をテーマに、培養細胞を使ってホルモンの作用を調べていることや、卒業後の進路について話した。

入矢美沙さん(17)は



女性科学者が研究の内容や魅力を話したサイエンス・トーク

山陽新聞社掲載了承済み

「研究内容は難しかったけど、分かりやすく説明してもらい、興味がわいた」と話していた。(伊丹友香)

【No.5】第2回おかやまサイエンス・トーク (2010.8.27 毎日新聞朝刊)

「科学」楽しく学んで

清心女子高 女性研究者ら講義

清心女子高(倉敷市二子)で26日、岡山大学の女性研究者が研究内容などを語る「おかやまサイエンス・トーク」が開かれた。文科省が助成する「女性研究者支援モデル育成事業」の一環で、同校で理系進学を目指す生命科学コース1~3年生約60人が参加した。

岡山大学の自然科学系の常勤女性研究者の割合は9.9%(08年)。日本は海外と比べ割合が低い傾向があり、岡山大学では、女性を3年の任期で助教に採用する「ウーマン・デューア・トラック(WTT)教員制度」を整え、19年の20%達成を目指している。

サイエンストークでは、WTT教員の三谷奈見季助教(29)がアルカリ土壌などのストレスに強い植物について、自然科学研究科博士後期課程3年の吉原千尋さん(28)は鳥の羽色の研究について説明した。生徒からは「大学院では大学の研究を続けるのか」、「研究設備は大学院の1年生でも使えるか」などの質問が続いた。

研究者になりたいという1年生の塚家佑貴子さん(15)は「こういう機会はほとんどなく、2人にあごがれて目指したいと思った。吉原さんは「女性研究者の間で、子育てでキャリアが途絶える不安が話題になることもある。『みんな楽しく研究している人がいる』ということとを伝えられた」と話した。(石川勝義)

毎日新聞社掲載了承済み



高校生に研究内容を説明する吉原さん(右) 清心女子高で

【No.6】第2回おかやまサイエンス・トーク (2010.8.28 山陽新聞朝刊)

女性研究者と意見交換

清心女子高 岡山大学科学トーク

岡山大学(岡山市北区)生命科学コースの生徒約60人が先端の科学研究から話を聞く「おかやまサイエンス・トーク」が26日、倉敷市二子の清心女子高であり、生徒らと意見交換を行った。

岡山大学生命科学コースの生徒約60人が先端の科学研究から話を聞く「おかやまサイエンス・トーク」が26日、倉敷市二子の清心女子高であり、生徒らと意見交換を行った。

同大学院自然科学研究科の三谷奈見季特任助教(29)は「植物栄養素は『研究テーマを変えたい』など尋ね、三谷特任助教は「研究設備が整っており、周りの研究者の意欲も高い」なトレスになることを説明し、「ストレスを軽減することが食糧増産を交わした。2年井上智香子さん(16)は「今の意義を強調した。今まで知らない分野の話で、新鮮だった」と話していた。

同トークは女性研究者の育成を目的に岡山大学が開いており、7月(岡山市北区榑津)に続き2回目。(安田祐二)

大学院生の吉原千尋さん(28)は「分子内分泌も「鳥の羽色の性差をつくりだすしくみ」と題して話した。質問コーナーでは、生徒たちが「大学院に通って良かったこと」を話した。

山陽新聞社掲載了承済み



科学をテーマに意見を交わす岡山大学大学院の吉原さん(左)と清心女子高の生徒

【No.7】 第3回おかやまサイエンス・トーク (2010.9.29 山陽新聞朝刊)



生徒たちに研究内容を説明する吉岡特任助教
(左) 総社高

岡山大(岡山市北区津島中)の女性研究者らから話を聞く「おかやまサイエンス・トーク」が28日、総社市総学院自然科学研究科特

理系分野 興味深めて

岡山大の 総社高で研究紹介

女性助教ら

岡山大(岡山市北区津島中)の女性研究者らから話を聞く「おかやまサイエンス・トーク」が28日、総社市総学院自然科学研究科特

任助教の吉岡美保さん(27)が、植物の光合成

について「太陽光が強くなると機能が低下する」などと分かりやすく説明。同大大学院生の瓜生央大さん(24)は、コオロギを使った体内時計の研究を紹介

した。総社高2年友野愛さん(17)は「説明が分かりやすかった。研究への興味が増えた」と話していた。同トークは、女性研

究者の育成や中高生に理系分野への興味を深めてもらうことなどを狙いに、岡山大が7月から県内の高校で開いている。
(新田真浩)

【No.8】 男女共同参画推進シンポジウム
(2010.12.2 山陽新聞朝刊)

◆男女共同参画推進シンポジウム「ダイバーシティこそが活力を生む」
18日後2時、岡山市北区津島中、岡山大創立50周年記念館2階。東芝多様性推進部長の岩切貴乃さん、公立はこだて未来

山陽新聞社掲載了承済み

【No.9】 男女共同参画推進シンポジウム
(2010.12.2 山陽新聞夕刊)

◆男女共同参画推進シンポジウム「ダイバーシティこそが活力を生む」
18日後2時、岡山市北区津島中、岡山大創立50周年記念館2階。東芝多様性推進部長の岩切貴乃さん、公立はこだて未来大の美馬のゆり教授による講演やパネル討論。託児もある。シンポジウムも託児も無料だが10日まで予約が必要。岡山大ダイバーシティ推進本部共同参画室(086-25117011)。

山陽新聞社掲載了承済み

【No.10】 男女共同参画推進シンポジウム
(2010.12.3 毎日新聞朝刊)

男女共同参画推進シンポジウム「ダイバーシティこそが活力を生む」女性研究者が活躍できる組織作りをめざして、18日(土)14時、17時、北区津島中1の1の1、岡山大学創立50周年記念館2階会議室。同大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室(086-25117011)。

毎日新聞社掲載了承済み

【No.11】男女共同参画推進シンポジウム (2010.12.10 朝日新聞朝刊)

多様な働き方考える
岡大、18日にシンポ
 岡山大男女共同参画室(086・251・7011)は、女性が活躍できる組織のあり方を考えるシンポジウムを、18日午後2時から岡山大創立50周年記念館(岡山市北区津島中1丁目)で催す。
 早くから男女共同参画に取り組む「東芝」の担当部長が報告。情報科学系の「公立はこだて未来大」(北海道函館市)の教授は、開学時における女性や外国人の教職員の積極採用や、その後の定着度について語る。女子高校生に自然科学系のおもしろさを伝える大学教員らによるパネルディスカッションもある。
 岡大男女共同参画室は「多様な働き方ができない職場は生き残れない。女性だけでなく、介護や育児をする男性や外国人が活躍できる組織のあり方、働き方を考えてほしい」と呼びかけている。無料託児は10日まで申し込む。

朝日新聞社掲載了承済み

【No.12】女性研究者支援 岡山大学の取組について (2010.12.9 朝日新聞朝刊)

理系女子を救え!

学生の4割なのに研究者1割

岡山大学が、自然科学系の女性研究者を増やす取り組みを始めています。理学部での4割を占める女性が、研究者となると1割となり、出産・育児がネックになっており、様々な支援策で10年後に2割まで増やすという。

岡山大の自然科学系(理学、工学、農学、保健、環境)の女性研究者は、422人中42人(2009年2月)。うち31人は看護学などを含む保健系で、それ以外だと数%と少ないという。そこで、若手を特任助教として年3〜5人採用する枠を設け、3年後に審査して常勤教員に採用する制度を今年度から始め、4人を採用した。これにより3年後に全体で54人とし、10年後には現在の1割から2割に引き上げる。

育児や介護で時間がとれない女性のデータ収集や観察などの研究を手伝う研究支援員制度も今年度から本格実施。6人が利用し、好評だ。計画は国の「女性研究者支援モデル育成事業」。

若手女性研究者枠で採用される

自然科学系の女子学生は、大学で40%、大学院修士課程35%、同博士課程30%と決して少なくない。しかし「博士課程修了後の研究や生活が不安定で、結婚や出産の見通しがたてられない」といった理由で、卒業後は企業へ就職する女性が多いという。

「八尋紀子」

岡大、10年後に2割目標

新たに採用枠／研究に支援員

理学部付属牛窓臨海実験所の御奥真穂さん(30)は「結婚や出産で研究を中断すると、(元の研究機関への)再就職は難しい。支援がなければ女性研究者は増えない。女性限定の採用枠はとてもありがたい」と話す。

男女共同参画室の中谷文美・岡大大学院社会科学部研究科教授は、「圧倒的に女性が少なく、採用や昇進の際に『わざわざ女性を選ばなくてもいい』と言う人がまだ多い。学内の意識を変え、女性が研究者を目指す環境を整えたい」と話している。

朝日新聞社掲載了承済み

【No.13】平成22年度男女共同参画推進シンポジウム及び女性研究者育成の取組について 岡山大学の取組について (2011.1.21 山陽新聞朝刊)

女性が働きやすい職場

「チームづくり」で成功

男女雇用機会均等法施行（1986年）から今年で25年になるが、女性の職場進出は必ずしも順調とは言えない。数が少ない自然科学系の女性研究者の育成に力を注ぐ岡山大学（岡山市北区津島中）は12月、同大に女性

育児や介護助け合う 企業の担当者らも考える

少子高齢化が進む日本が今後、労働力を確保して国力を維持するには、女性をはじめ、外国人や高齢者ら多様な人材の活用（ダイバーシティ＝多様性）の推進が必要だ。同大副学長の田中宏二（ダイバーシティ推進部長）が共通認識を提示し、議論は始まった。

岩切東彦多様性推進部長（左端）、美馬のゆり公立ほこだて未来大教授（左から2人目）を抱いて、女性が働きやすい職場づくりについて話し合った岡山大学のシンポジウム



岡山大学は2009年から国の助成を受けて自然系（いすれも09年）の自然科学系の女性研究者の育成事業「女性研究者が育つ進化プラン」に取り組んでいる。昨春、特任助教として採用された4人は岡山の学生は女性が約4割を占めるのに対し、研究者で、3年後の審判を占めるの12%。自ら調査を経て常勤の道が開かれない。来年度もすでに3人を起爆剤に大学全体の自然科学系の理学、工学、農学、環境の女性研究者が約3%（11年度増やす計画だ）に絞るとわすか3%（11年度増やす計画だ）と話す。

女性研究者育成へ 今年度は採用制度も導入

岡山の学生は女性が約4割を占めるのに対し、研究者で、3年後の審判を占めるの12%。自ら調査を経て常勤の道が開かれない。来年度もすでに3人を起爆剤に大学全体の自然科学系の理学、工学、農学、環境の女性研究者が約3%（11年度増やす計画だ）に絞るとわすか3%（11年度増やす計画だ）と話す。

岩切部長は「チームマネジメントが非常に重要」と話し、チームづくりに役立つコミュニケーションの手法を取り組む。美馬教授は「女性を含む多様なメンバー構成可能なチームは、職場の持続可能な変革につながる」と話した。パネル討論では、西垣誠岡山大学院教授が「育児や介護に携わる人を助け合う仕組みとして、組織のグループ（チーム）化はこれからの社会の課題」と発言。同大資源植物学研究所の本洋子教授は自身の経験を振り返り「女性がいかに自信を持って社会で活躍できるか、大学は積極的な取り組みが必要」と意見を述べた。

同大は、複数教員による共同授業（チーム・ティーチング）を取り入れている。当初は抵抗感が強かった教員だが、07年調査では、60%が「研究の刺激になる」、96%が「授業や学生の問題を共有できる」とプラス評価している。岡山理科大学教授は「女性自身が自信を持って社会で活躍できるか、大学は積極的な取り組みが必要」と意見を述べた。

山陽新聞社掲載了承済み

【訂正】誤「10年で10人程度増やす計画だ。」 → 正「3年で10人以上増やす計画だ。」

IV-5 相談窓口の設置

(1) 女性サポート相談室の概要

本事業プランでは、出産・育児・介護等と仕事との両立を支援し、女性が働きやすい環境整備をすることが主要な課題である。そのために、ハード面だけでなくソフト面からの支援も不可欠となる。女性サポート相談室では、岡山大学の常勤、非常勤を問わず女性教職員、女性研究者そして学生の方々が抱える様々な悩みを受け入れ、相談相手、話し相手が得られることを第一義的目的として、2010年1月に開設された。相談内容としては、①出産・育児・介護と仕事の両立に関する問題、②教育・研究・修学環境に関する問題など、③メンタルヘルスに関する問題などである。

①利用対象者

本学の女性教職員・研究者・学生。

ただし、女性サポートなどに関する相談であれば男性の方の相談も可能。

②利用時間

地区	利用時間	場所
津島地区	水・金曜日 10時～12時 13時～16時	環境理工学部2階 キャリアサポート室分室
鹿田地区	月曜日 10時～12時 13時～16時	医学部記念会館3階

③相談員の紹介

小畑 千晴 (おばた ちはる)

臨床教育学博士・臨床心理士

スクールカウンセラー、女性相談所相談員、教職員や学生のカウンセリング等、研究者としての豊富な経験がある。



IV-5 (2) 活動報告

①開設から現在までの経緯

【2009年12月】 女性サポート相談員を採用

相談室開設に向けての具体的な準備の開始。

【2010年1月】 女性サポート相談室開設
鹿田キャンパスでは、医学部記念会館3階の一室を相談室とした。津島キャンパスでは、環境理工学部2階キャリアサポート室分室を相談室とした。開設にあたり、ポスターやチラシを配布して学内に周知を図った。また、大学HPのトップページにて紹介した。
【2010年3月】 山陽新聞に記事掲載
女性サポート相談室の活動に関する記事が掲載された。
【2010年3月】 女性サポート相談室HP開設
男女共同参画室HPのリニューアルに伴い、相談室概要、相談方法、アクセスマップのページを作成し掲載した。
【2010年5月】 第1回キャリアカフェ開催
女子学部学生及び大学院生を対象に実施した。
【2010年6月】 相談室パンフレットの作成
相談室の3つ折りパンフレットを作成した。
【2010年7月】 第2回キャリアカフェ開催 / 女性研究者訪問開始
交流サロンとの合同開催。「育児と仕事の両立 どうな感じ？何が問題？」のテーマで実施した。 岡山大学の女性研究者への訪問活動を開始した。
【2010年9月】 第3回キャリアカフェ開催
鹿田地区女性教職員を対象に実施した。
【2010年12月】 第4回キャリアカフェ開催 / 筑波大学訪問
津島地区女性教職員を対象にキャリアカフェを実施した。 筑波大学の男女共同参画室を訪問し、相談室の活動状況や機能や課題について協議した。また、先進大学の事例を調査した。
【2011年1月】 香川大学訪問 / 島根大学訪問 岡山県男女共同参画推進室訪問
香川大学および島根大学の男女共同参画推進室、岡山県男女共同参画推進室(ウイズセンター)を訪問し、男女共同参画室内相談室としての役割について協議した。また、今後の密接な連携、情報交換などについて確認した。

IV-5 (2) ②相談室の体制

岡山大学には、精神面に関わる相談・支援を行う組織がいくつか存在する。例えば、保健管理センター、学生相談室、ハラスメント相談室、キャリアサポート室などである。本相談室では、特に関係する上記4組織との連携を密に図り、情報交換や相互に適切な相談窓口の紹介を行なえる体制づくりに務めている。

IV-5 (2) ③相談員の専門性と役割

女性サポート相談室に採用された相談員は、臨床心理士の資格を有し、県の女性相談所において心理相談の経験、大学健康管理室のカウンセラーとして学生だけでなく教職員に対する相談など多方面にわたり豊富な経験がある。加えて、男女共同参画における重要な施策の1つであるドメスティック・バイオレンスの防止に関する研究にも取り組んでいた。従って、大学というある意味特殊な環境に関する事情も熟知し、加えて女性の抱えるさまざまな問題の現状と専門知識を有している。

また、個人的にも子育て中の一児の母親であるという立場から、育児や家庭と仕事の両立相談においては、特に共感しやすく、自らの経験や体験に基づいた相談活動を行っている。

相談室の役割として、相談者の連絡を待つという受け身的な姿勢だけではなく、相談室の普及や活用促進のために積極的な活動を担う必要がある。そのために、学部や学科などに拘束されず、また日頃の人間関係や仕事関係に影響のない、ニュートラルな立場にある相談員を交えた、小グループでの「キャリアカフェ」を企画し、女性研究者や職員などが自由に話せる場の設定を定期的実施した。

IV-5 (2) ④相談状況

2010年1月より2011年1月末までの1年間の相談件数及び相談者内訳を表1に示す。延べ相談件数は、74件である。開室初年度ということもあり、相談室の広報を中心に活動したが、学内全体への周知は十分とは言えない状況である。しかしながら、比較的女性事務職員間の中では広がりを見せており、口伝えによって相談に訪れる人が増えている。今後は教員間における広がり期待している。

相談内容に関する傾向は、それぞれの立場によって違いが見られた。学生の相談は、主に進路に関する相談であった。将来、研究者の道に進もうか、あるいは就職した方がよいのかといった、キャリアに関する相談であった。教員の場合は、学生指導上の相談が多く、コンサルテーションとして利用されるケースと、子育てに関する情報提供を求めている。職員の場合は、子育てや仕事との両立に関する相談がほとんどであった。立場により相談内容が異なる一方で、同じ境遇にあり、同じような悩みを抱えている人と話をしたいという共通した意見も見られた。それぞれの所属先で、自由に話したり気軽に相談できるような時間や機会がなく、相談室にすればそうしたネットワーク作りができるのではないかと期待する声も聞かれた。そうした意味で、相談室は相談者と相談員の1対1の関係だけでなく、さまざまな人とのつながりをつくる働きも求められおり、次項で記載する「キャリアカフェ」には、大きな意義があると考えられる。

表1 相談件数及び相談者内訳

		相談件数	相談者	相談者内訳		
				学生	教員	職員
2010年	1月	3件	1人	1	0	0
	2月	7件	3人	1	1	1
	3月	8件	5人	2	1	2
	4月	2件	2人	1	1	0
	5月	9件	6人	3	2	1
	6月	8件	5人	2	1	2
	7月	4件	3人	1	1	1
	8月	3件	3人	0	0	3
	9月	6件	3人	0	0	3
	10月	6件	4人	0	2	2
	11月	10件	7人	3	2	2
	12月	4件	3人	0	0	3
2011年	1月	4件	3人	2	1	0
	合計	74件	48人	16	12	20

IV-5 (2) ⑤キャリアカフェ

女性サポート相談室が主催するキャリアカフェは計4回実施した。目的は、同じ課題や悩みを持つ者が集まり互いに話し合うことにより、何らかのヒントを得たり、情報を収集すること、そして学内のネットワークを作ることである。以下に、第1回から4回までのそれぞれについて概略をまとめる。

○ 第1回目 H22年5月26日(水) 環境理工学部2階 女性サポート相談室

女性研究者および大学院生を対象に、女性として、研究者として、研究者を目指すものとして抱えている不安や困難さについて共有し、また情報交換をすることにより心理的不安の軽減につなげていくことを目的に開催された。参加者2名が女性研究者を目指す学部生および大学院生であったことから、女性研究者を目指す際の不安や課題について意見交換がなされた。その後、相談員からは我が国における支援事業が紹介された。参加者は、厳しい現実にある一方で門戸が開かれつつあることを知り、今後の活動に励みにしたいとの感想があり意欲の高まりへとつながった。同じ課題を持つ人が集まり、考えを言語化することによって、問題を共有することができ、個人への心理的安定につながったと考えられる。

○第2回目 H22年7月30日(金) 大学本部棟5階 会議室(交流サロンとの共催)

男女共同参画の課題の1つである家事と育児の円滑な両立を行うために、体験者および経験者がそれをどう感じ、何が問題であるのか、またどう克服していけばよいのかを考えるための機会とすることが目的であった。今回の交流サロンは、女性サポート相談室が女性研究者を対象としたお茶やお菓子を食べながら自由に意見交換をする場としてキャリアカフェの実施を始めたことから、その要素を取り入れた開催となった。話題提供のために、昨年実施した岡山大学男女共同参画推進に関するアンケート調査の中で、特に支援ニーズに関する紹介が行われた。その後、現在育児と仕事を両立中の社会文化科学研究科教員松本直子、奥平寛子両先生、事務職員の中村美紀子さんより体験談が話され、工夫点、問題点、要望などが語られた。それを受けて、フロアからは、参考となる情報や自分の体験談などが話され、非常に活発な意見交換が行われた。常勤教員で妊娠中の教員には業務軽減の配慮や、他の教員への影響を心配し産休育休を取ることに遠慮を感じていることも指摘され、部局内での教育負担軽減策等のシステム導入が必要であることが課題として挙げられた。

事務職員については、時短勤務の導入によって業務の軽減が進められているが、利用者もその時間内に業務を遂行することの大変さに加え、雇用者側も業務内容により制度の使用に躊躇する面もあることが明らかになった。研究補佐員などの非常勤で任期制の立場にある人では、学童保育や学内保育園の利用料金が高額であり利用しにくい状況にあるため、雇用形態による料金制度の見直しも検討すべき課題であることが明らかになった。

○第3回目 H22年9月29日(水) 医学部記念会館3階 女性サポート相談室

鹿田地区に勤務する女性教職員を対象に、子育てや家庭と仕事の両立に関する困難さや不安を共有することによる心理的不安の軽減と情報交換を行うことを目的に開催された。参加者3名が現在子育て中の女性であり、両立の苦労点について意見交換がなされた。具体的には、悪阻は個人差があるがそれに対する休日制度の充実とともに仕事量の負担の軽減を要望する声や、妊娠・出産に伴う休暇休日制度は存在するが、その使用には職場との兼ね合いもあり躊躇せざるを得ないとの声があった。これらの制度を気兼ねなしに使うための職場の理解を求める意見がだされた。また、育休明けに復帰する際、事前に職場内で相談できる人が見当たらず不安であった。このために、気軽に相談できる人、そのようなシステムがあると心強く、スムーズに復帰でき仕事の能率アップも期待できるなどの意見が寄せられた。同じ課題を持つ人が集まり、考えを言語化することによって、問題を共有することができたと考えられる。また、同じ大学に属し事情をある程度共有理解し、かつ利害関係や評価に関係ない相談者に要望や不満を話すことによって、一時的な不満の解消と後輩の為に職場環境を良くしようとする意欲も湧いてきたと考えられる。問題点の多くは、女性個人では解決できず

職場内の男性の理解と同時に女性の理解を必要とする場合が少なからずある。そのため、こうした会が女性だけでなく男性にも参加を促していく必要があることを痛感した。

○第4回目 H22年12月8日(水) 本学本部棟4階 ミーティングルーム

津島地区に勤務する女性教職員を対象に、子育てや家庭と仕事の両立に関する困難さや不安を共有することによる心理的不安の軽減と情報交換を行うことを目的に開催された。参加者4名中1名が乳幼児を、その他の参加者は小中学生の子供を養育中という状況から、新米ママに先輩ママから両立中の苦労や困窮時の対処法についてアドバイスがなされた。

現在子育て中の立場にある人は、子育て環境の不十分さを強く感じる。しかし、先輩ママ達の子育て中の10年前と比較すると、制度を始めさまざまな部分で徐々にではあるが改善の方向にあることが話題となり、各人多少とも将来に期待を抱くことができたと思われた。同じ職場内で子育て体験や両立の苦労を共有することにより、子育て中の女性の心理的不安の軽減になったものと考えられる。

IV-5 (2) ⑥女性研究者とのネットワークの構築

2010年7月より、学内の自然科学系の女性研究者を対象に訪問活動を行った。目的は、子育て中の女性研究者たちと面談することにより、どのような支援が必要かを聞き取ることと、同時に大学内のネットワークを構築することである。現在(2011.1)までに、4名と面談した。いずれも学内の医歯薬学研究科に所属する30代~40代前半の女性たちであり、子育てしながら常勤教員として雇用され日々頑張っておられる。4人という少ない人数ではあるが、現段階での訪問活動の結果からは、支援制度に関する要望というより、むしろ意識啓発・意識改革を求める声が多く聞かれた。具体的には、「子育て中のため、学内の子育て支援制度を使用したいが、上司の理解が得られない」「夫も同じ研究者だが、私だけが家事や育児をしなければならない」という、女性研究者を取り巻く周囲の人たちへの理解を求める声であった。改善には、当事者である彼女達の努力は当然必要であるが、こうした内容は職場内の人間関係やパートナー間だけの問題ではなく、社会全体の問題でもある。そのために大学としても強く働きかけをする必要があると考えられる。既に男女共同参画室を始めとして次世代育成支援室においても、女性研究者の両立支援や男性の育児参加への啓発活動が既に実施されてきたが、未だ十分に浸透しているとはいえない結果であると考えられる。従って、こうした声を反映すべく、男女共同参画室の交流サロンやシンポジウムの方などで訴えていきたい。

IV-5 (2) ⑦県内外の関係機関とのネットワーク構築

○筑波大学 H 22 年 12 月 3 日(金)

対応者： 男女共同参画推進室 准教授 遠藤雅子氏 相談員 沖永友貴枝氏

女性研究者支援モデル育成事業の一貫として開設された相談室の活動状況と抱える課題について協議するとともに、先進事例について学んだ。筑波大学の相談室「あう」の活動状況について沖永相談員の紹介の後、岡山大学の女性サポート相談室の取り組みについて説明した。相談員は、職務内容や同じ専門職のスタッフが同室内に不在するなどの理由から、孤立する場合が多い。また事業内の相談室という特殊性により、他所属の相談員への理解も得られにくい。従って、今後は必要に応じて両校の相談員が連携していくことが確認された。新規形態の相談室として、通常の相談員の業務以外にも、相談員から女性研究者を始めとして大学内のさまざまな部署の方々と積極的に関与する必要がある。特に、既存の学内相談室との差別化を明確にする必要があり、学内教職員に理解を深めてもらえる努力が必要であることが、共通課題として確認された。

○香川大学 H 23 年 1 月 14 日(金)

対応者： 男女共同参画推進室 特任教授 長安めぐみ氏

女性研究者支援モデル育成事業の一貫として開設された相談室の活動状況と抱える課題について協議した。長安めぐみ特任教授が、他の業務と兼務しながら相談活動にあたり、それとは別に工学部内に設置された相談室で非常勤心理士 1 名が週に一度、相談業務を担当していることなどの説明を受けた。互いの活動状況について情報交換や意見交換を行うことにより、男女共同参画室における相談活動の内容、役割の重要性について共通認識を得ることができた。とりわけ、男女共同参画推進室の相談室としての定義付けを明確にし、その役割とスムーズな活用のためのシステム作りが必要であるとの共通認識を得た。そのために、今後両大学が密接な連携のもとに様々な課題で検討していくことが確認された。

○島根大学 H 23 年 1 月 18 日(火)

対応者： 室長 澤アツ子氏、 特任講師 大西俊江氏、 草野知子氏

澤アツ子教授より、本モデル事業における相談室の位置づけおよび役割について説明を受けた。その後、相談室の相談員である大西俊江特任講師、草野知子特任講師から、相談室の体制、具体的な取り組みの経過、相談内容および件数、今後の課題について説明された。島根大学の 2 つのキャンパス（松江地区と出雲地区）のそれぞれに相談室を開設し、5 名の非常勤臨床心理士が「女性支援カウンセラー」として活動に従事されている。島根大学名誉教授でもある大西先生を中心として、日頃顔を合わせない勤務体制の中でもカウンセラー同士の連携がスムーズに行われており、また大学内にある他の相談センターとも円滑な協力体制が整っていた。これまで、国立大学の男女共同参画推進室などに設置された相談室の担当者が相互に連携を図り、情報交換するための機会がほとんど皆無であった。

学内における他の相談室とは、ある程度連携できる部分があるが、趣旨が異なる部分もあり、問題を共有しにくい点もみられた。今後とも相談件数が増加すると考えられることから、同じ趣旨を持つ相談室として大学間の連携を図ることが必要であり、そのためのネットワーク作りの重要性が確認された。

○岡山県男女共同参画推進室 ウイズセンター H23年1月19日(水)

対応者：所長 水野洋子氏 相談員 国田郁美氏 永井律子氏 妹尾敬恵氏

岡山県男女共同参画推進室の取り組み全体について、水野所長より説明を受けた。男女共同参画に関わる相談活動や情報提供が主な機能であり、そのうち、女性相談員による生き方や家族・夫婦などの悩みの相談では、年間6000件の相談が寄せられていた。その内容は多岐にわたり、必要に応じて法律相談や医療相談および県内の他機関（女性相談所）などとも連携しながら対応しているとのことであった。相談内容に関して、担当相談員3名と情報交換を行ったところ、岡山大学と関連する事項もあるとのことから、今後は必要に応じて連携していくことが確認された。

女性サポート相談室ポスター

平成21年度 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

女性サポート相談室

<利用時間>
10:00 ~ 16:00

<津島地区>
水曜日・金曜日
環境理工学部 2階
キャリアサポート室分室

<鹿田地区>
月曜日
医学部記念会館 3階

<総合受付> Mail相談OK!
E-mail: support-w@adm.okayama-u.ac.jp
Tel: 086-251-7011 (男女共同参画室)
*利用時間以外の受付も行っています。
(平日 8:30 ~ 17:15)

相談員: 小畑 千晴 (おばた ちはる)
臨床教育学博士・臨床心理士

女性サポート相談室 QRコード

本学に所属する女性教職員・女性研究者・女子学生の方を対象に、女性だからこそ抱えるさまざまな悩みや不安に答えるための相談室を開設しました。
(但し、女性サポート等に関する相談であれば、男性の相談も受け付けます)

例えば…

- キャリア確立に関すること
 - ・どのように業績を積み重ねていけばいいかわからない
 - ・「研究者」にはなりたいたが、大学に残るべきか、就職するべきか
- 結婚・妊娠・介護等 ライフプランに関すること
 - ・子供を出産予定だが、育児休業を取得できる雰囲気ではない
 - ・仕事と家庭の両立、育児や保育、介護について
- 日頃のちょっとした不安や悩みなど

岡山大学 ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室